

令和2年版

UR 都市機構
保全工事共通仕様書

田島ルーフィング対応製品

GUIDE BOOK

ガイドブック
Vol.2

Contents

1章	一般共通事項	02
2章	防水修繕工事	
1節	一般事項	03
2節	屋根露出防水部分修繕工事	06
3節	屋根外断熱等部分修繕工事	11
4節	屋根外断熱露出防水工事	18
5節	脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）	28
6節	脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）	38
7節	バルコニー等床防水工事	42
8節	屋上架台・庇等防水工事	50
9節	トレンチピット等防水工事	52
10節	階段室床防水工事	54
11節	勾配屋根改修工事	58
	材料紹介	63

1章 1節 一般共通事項（一般事項）

保全工事共通仕様書 1.1.3

設計図書の適用

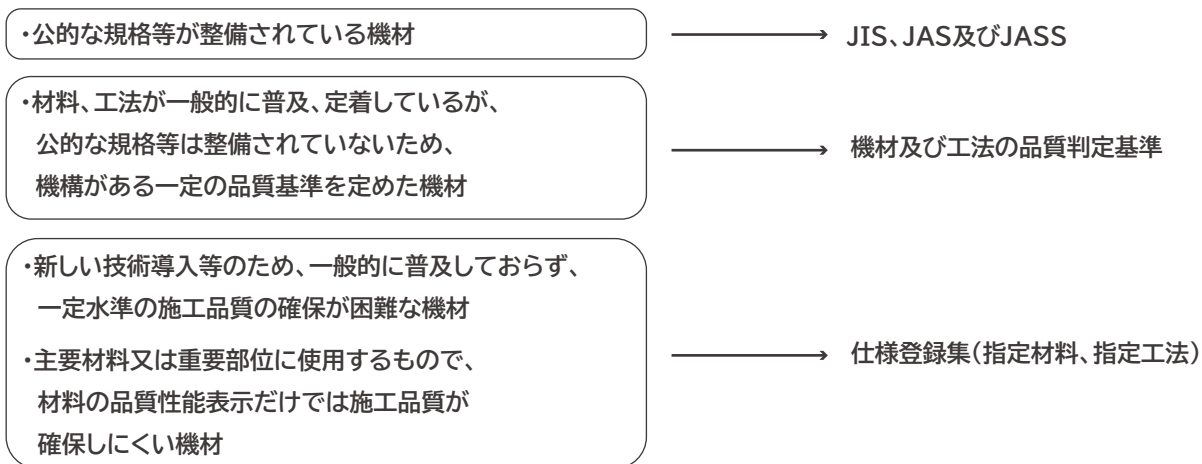
設計図書の適用 「保全工事共通仕様書」⇒3ページ

- 1 すべての設計図書は、相互に補完する。
- 2 設計図書の優先順位は、原則として、次の(1)から(12)までの順番のとおりとし、これにより難しい場合は、総則編1.1.5（疑義に対する協議等）による。
 - (1) 追加説明事項及び質疑応答書
 - (2) 現場説明書
 - (3) 特記仕様書
 - (4) 共通設計図以外の設計図
 - (5) 共通設計図（各種詳細図集）
 - (6) 保全工事共通仕様書
 - (7) 機材及び工法の品質判定基準、仕様登録集
 - (8) 都市再生機構工事特記基準
 - (9) 機材の品質判定基準
 - (10) 基盤整備工事共通仕様書
 - (11) 公共住宅建設工事共通仕様書
 - (12) 公共住宅建設工事機材の品質・性能基準

機材の取扱い 「機材及び工法の品質判定基準／仕様登録集」⇒3ページ

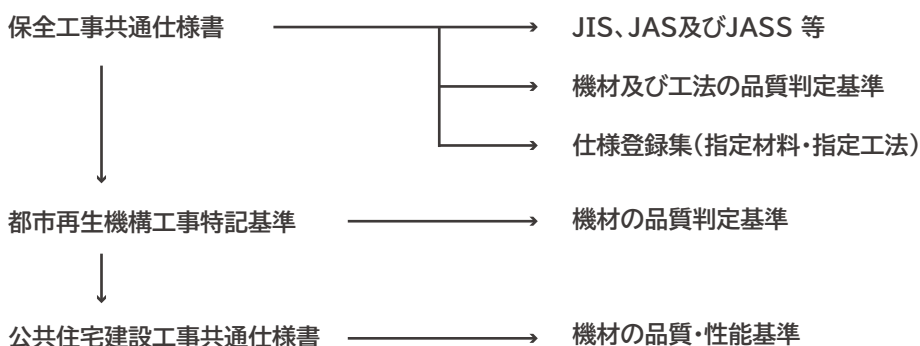
1 品質確認の位置付け

工事目的物で使用する材料、部品及び機器（以下「機材」という。）の品質、性能等の確認について、以下の基準等により確認することとする。



2 機材の構成

使用する機材の構成は以下による。



2章_1節 一般事項

保全工事共通仕様書 2.1.1/2.1.2

適用範囲／一般事項

適用範囲

本章は、防水層等の修繕工事に適用する。

一般事項 詳細は「保全工事共通仕様書」⇒30ページ

- ・新規防水を施工するまでに漏水のおそれのある場合は仮防水を施工する。なお、仮防水材の品質等は、製造所の仕様による。
- ・本項に記載する「歩行・軽歩行・非歩行」の定義は、次のとおりとする。
 - 歩行：不特定多数の人の歩行の用途に供し、利用の制限を設けない屋上利用。
 - 軽歩行：防水層を傷つけない履物で歩行し、建物管理者などの限定的な人の歩行に供し、歩行頻度が比較的少ない屋上利用。
 - 非歩行：防水層を傷つけない履物で歩行し、設備点検など歩行頻度が極めて少ない屋上利用。
- ・防水保証書の提出及び書式は、特記による。

2.1.1表 屋根外断熱露出防水等の修繕区分と適用仕様

修繕工法		現況	露出アスファルト 防水常温工法	外断熱工法			外断熱露出 アスファルト 防水工法	適用仕様	ガイド ブック ページ数	
				アスファルト 防水常温工法 (非断熱部)	コンクリート ブロック工法	アスファルト 成形板工法				
全面修繕	外断熱露出 アスファルト防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	○	○※	○※	—	2.4.1 2.4.2	18～23	
		撤去方式	○	○	—	—	—			
	外断熱加硫ゴム系 ルーフィングシート防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	○	○※	○※	—	2.4.1 2.4.5	—	
		撤去方式	○	○	—	—	—			
部分修繕	アスファルト防水常温工法(P型)	かぶせ方式	○	—	—	—	—	2.2.1 2.2.2	6～9	
		撤去方式	○	—	—	—	—			
	アスファルト防水常温工法 (非断熱部)	かぶせ方式	—	○	—	—	—	2.3.1 2.3.2	11～13	
		撤去方式	—	○	—	—	—			
	外断熱露出アスファルト防水工法 (非断熱部分修繕)	かぶせ方式	—	—	—	—	○	2.4.1 2.4.3	18・24	
		撤去方式	—	—	—	—	○			
	断熱部	コンクリートブロック工法		—	—	○	—	—	2.3.1 2.3.3	—
		アスファルト成形板工法		—	—	—	○	—	2.3.1 2.3.4	11 14～15
		外断熱露出アスファルト防水工法 (断熱部分修繕)	かぶせ方式	—	—	—	—	○	2.4.1 2.4.4	18・25
			撤去方式	—	—	—	—	○		

※ 防水層より上の断熱部分を撤去し、既存の防水層は存置する。

* 表内グレー塗りつぶし箇所：弊社対応製品なし

2章_1節 一般事項

保全工事共通仕様書 2.1.2

一般事項

2.1.2表 脱気絶縁複合防水の修繕区分と適用仕様

修繕工法		現況	アスファルト防水のうえ 断熱層、保護コンクリート	歩行用・軽歩行用		適用仕様	ガイドブック ページ数	
				歩行用 ウレタンゴム系 塗膜防水工法	歩行用 ポリマーセメント系 塗膜防水工法			
全面修繕	歩行用・軽歩行用	歩行用ウレタンゴム系 塗膜防水工法 (全面修繕1回目) (全面修繕2回目以降)	かぶせ方式	○	○	○	2.5.1 2.5.2 2.5.3	28～34
			撤去方式	—	○※	○※		
		歩行用ポリマーセメント系 塗膜防水工法 (全面修繕1回目) (全面修繕2回目以降)	かぶせ方式	○	○	○	2.5.1 2.5.5 2.5.6	—
			撤去方式	—	○※	○※		
	軽歩行用加硫ゴム系 ルーフィングシート防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	—	—	2.5.1 2.5.8	—	
		撤去方式	—	—	—			
	非歩行用	非歩行用改質アスファルト防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	—	—	2.6.1 2.6.2	38～40
			撤去方式	—	—	—		
		非歩行用加硫ゴム系 ルーフィングシート防水工法 (全面修繕1回目)	かぶせ方式	○	—	—	2.6.1 2.6.3	—
			撤去方式	—	—	—		
部分修繕	歩行用・軽歩行用	歩行用ウレタンゴム系 塗膜防水工法(部分修繕)	かぶせ方式	—	○	—	2.5.1 2.5.4	28・35
			撤去方式	—	○※	—		
	歩行用・軽歩行用	歩行用ポリマーセメント系 塗膜防水工法(部分修繕)	かぶせ方式	—	—	○	2.5.1 2.5.7	—
			撤去方式	—	—	○※		

※ 撤去は保護コンクリート上部の防水層とし、保護コンクリートは存置する。

* 表内グレー塗りつがし箇所：弊社対応製品なし

2章_1節 一般事項

保全工事共通仕様書 2.1.2

一般事項

2.1.3 表 塗膜防水等の修繕区分と適用仕様

修繕工法		現況	モルタル塗り、 コンクリート素地 等	タイル張り等	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	超速硬化ウレタン 吹付工法	適用仕様	ガイド ブック ページ数
バルコニー床・ 共用廊下排水溝	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	○	—	○	○	—	2.7.1 2.7.2 2.7.3 2.7.4	42～47	
	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	○	—	○	○	—	2.7.1 2.7.5 2.7.6 2.7.7	—	
屋上架台・庇等	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	○	—	○	○	—	2.8.1 2.8.2	50	
	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	○	—	○	○	—	2.8.1 2.8.3	—	
トレンチピット等	ウレタンゴム系 塗膜防水工法	○	—	○	○	—	2.9.1 2.9.2	52	
	ポリマーセメント系 塗膜防水工法	○	—	○	○	—	2.9.1 2.9.3	—	
階段室床	超速硬化 ウレタン吹付工法	○	—	—	—	○	2.10.1 2.10.2 2.10.3 2.10.4	54～56	
浴室	FRPシート防水 (紫外線硬化型)	○	○	—	—	—	2.12.1 2.12.2	—	
	FRP塗膜防水 (2液硬化型 ポリエステル樹脂 ノンスチレン型)	○	○	—	—	—	2.12.1 2.12.3	—	
	硬質ウレタン塗膜防水	○	○	—	—	—	2.12.1 2.12.4	—	

* 表内グレー塗りつぶし箇所：弊社対応製品なし

2.1.4 表 勾配屋根改修の修繕区分と適用範囲

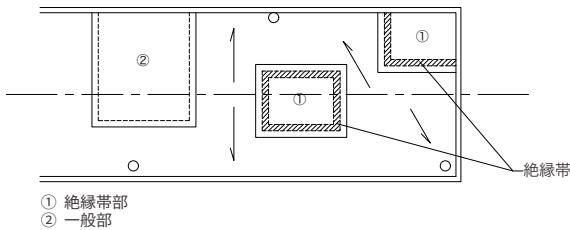
修繕工法	現況	シングル	スレート	適用仕様	ガイド ブック ページ数
既存シングル改修工法 (改質アスファルトシート防水)		○	—	2.11.1 2.11.2	58～60
既存スレート改修工法 (かぶせ工法)		—	○	2.11.1 2.11.3	—

* 表内グレー塗りつぶし箇所：弊社対応製品なし

2章_2節 屋根露出防水部分修繕工事

屋根防水等部分修繕における「絶縁帯の設置範囲」

・絶縁帯設置図（例）



絶縁帯部と一般部 違いのポイント

- ① 絶縁帯部
- ・絶縁帯を設置する場合：
棟を跨ぐ場合、または勾配で水を受ける部位に補修範囲がある場合
 - ・修繕工法：アスファルト防水常温工法（P型）
- ② 一般部
- ・一般部の場合：棟を跨ぎ、かつ立上り部まで補修範囲がある場合
 - ・修繕工法：アスファルト防水常温工法（P型）

保全工事共通仕様書 2.2.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋根露出アスファルト防水の部分修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕の防水工法は、2.1.1表によるアスファルト防水常温工法（P型）とする。

下地処理

既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。

なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法（P型）

適用範囲

本項は、アスファルト防水層の部分修繕に適用する。

下地処理

(1)かぶせ部の下地処理

- イ 既存防水層の浮砂、付着物はブラシ等でよく清掃し、除去する。
- ロ 防水層立上り、既存防水層下の屋根スラブ等のコンクリート、モルタル面に生じているひび割れは、ゴムアスファルト系シーリング材又は常温工法用アスファルトで処理し、水密性の向上を図る。
- ハ 勾配不良等で不陸調整が必要な部分は、ルーフィング類の増張り又は「機材の品質・性能基準」に適合する初期補修用プレミックスポリマーセメントモルタル（以下「メンテモルタル」という。）塗りを行う。なお、不陸が著しい場合の処置は、監督員と協議する。
- ニ 既存防水層のふくれ、しわ、浮き等は切開し、コンクリート下地と既存防水層間の水分及び湿気を乾燥させた後、バーナー等で既存防水層のアスファルトを加熱溶融させ、ただちにローラーで押え付け密着させる。また、必要に応じてゴムアスファルト系シーリング材又は常温工法用アスファルトを塗り込む。
- ホ 既存防水層の割れ、破断部分には、既存防水層の上に改質アスファルトルーフィングを張り、ゴムアスファルト系シーリング材又はアスファルトコンパウンドで目つぶし塗りを行う。
- ヘ 既存防水層のジョイント部分に生じた剥離は、当該部分を除去し、十分に清掃した後、バーナー等で加熱溶融させ周囲と馴染ませる。
- ト 既存防水層の撤去部と残存部の境目は、新設防水層がなじみやすいように勾配処理する。
- チ 既存防水層の表面には1.2kg/m²以上(既存常温工法の上に常温工法で施工する場合1.0kg/m²以上)のアスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材を塗布する。

2章_2節 屋根露出防水部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法（P型）

下地処理

(2)撤去部の下地処理

- イ 既存防水層を撤去した後、下地コンクリート、モルタル面の付着物はスクレーパー、ワイヤブラシ等によりケレンする。除去できないアスファルトはバーナー等で溶解し、平滑にする。
- ロ 下地コンクリート及びモルタルのひび割れ等については、ゴムアスファルト系シール材の充填又はルーフィング類の増張りにより、雨漏れ等が生じないように速やかに処理する。
- ハ 架台天端等の露出している部分でひび割れ等がある場合は、エポキシ樹脂注入又はUカットのうえ、シーリング材の充填を行う。
- ニ 下地面の著しい不陸、排水障害は、メンテモルタル塗りをを行う。なお、軽微なものについては、ルーフィング類の増張りを行う。
- ホ 立上り部等の入隅部は、必要に応じて同質防水材料の増張りを行う。また、出隅部は、防水層保護のため必要に応じてサンダー掛け等により5mm程度の面取りを行う。
- ヘ TVアンテナ引込架台等に装着されているケーブル留めの金具は取り外し、防水施工後、再度、取り付ける。
- ト 上記以外の処理及び防水層の施工範囲、端部処理等は特記による。

仕様登録工法 「仕様登録集」⇒338 ページ

- (1)下処理終了後、絶縁帯を設ける場合は既存防水層を200mm幅で撤去する。
- (2)リベースを1.2kg/m²の割合で塗布する。その範囲に絶縁帯を設ける場合は、絶縁帯の外側13～15cmの位置まで、絶縁帯を設けない場合は指示された範囲内とする。
- (3)リベースが乾燥した後、ガムクールキャップEXの剥離紙をはがし、プロパンバーナーであぶり、ローラーで圧着する。重ねしろはサイドラップ、エンドラップとも、100mmとする。エンドラップの張り重ねは先端を三角にカットし、砂付部分に強力ガムシールを塗り、張り重ねる。
- (4)既存防水層と補修部分の取合いは、ガムクールキャップEXの張仕舞部に強力ガムシールを塗布しシールする。

材料

材料は、「仕様登録集」によるほか、次による。

- イ 速乾性アスファルトプライマーは、製造所の仕様による。
- ロ アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材は、製造所の仕様による。
- ハ 常温工法用アスファルトコンパウンドは改質アスファルト又は常温工法用アスファルトとする。
- ニ 改質アスファルトルーフィングは合成繊維基材に改質アスファルトを含浸、塗覆させたルーフィングで、常温工法用アスファルトとの併用型（複合工法）、溶着型（トーチ工法）、自己接着型（自着工法）又はそれぞれに砂付き仕上げを施したものである。
- ホ 防水層端部の止水に用いるシール材はゴムアスファルト系とし、その品質は2.3.3表による。

2章_2節 屋根露出防水部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.2.2

アスファルト防水常温工法（P型）

I 工程

2.2.1 表 アスファルト防水常温工法（P型）の工程

① 絶縁帯部

工程	材料	使用量/m ²	種別 ※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg以上	—	○	—	—
2	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg) (注)1	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○	—	—
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—	—	—
5	改質アスファルトルーフィング (注)2、3	—	○	○	ガムクールキャップEX	—
絶縁帯	絶縁帯用ルーフィング	—	—	—	ガムロンMGベースB20	—

② 一般部

工程	材料	使用量/m ²	種別 ※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg以上	—	○	—	—
2	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg) (注)1	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○	—	—
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—	—	—
5	改質アスファルトルーフィング (注)2、3	—	○	○	ガムクールキャップEX	—

※ 既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

(注) 1. 工程 2 の () 内の数値は既存防水層がアスファルト常温工法の場合に適用する。

(注) 2. 工程 5 に溶着型（トーチ工法）、自己接着型（自着工法）を使用する場合は、工程 3 及び工程 4 を省略する。

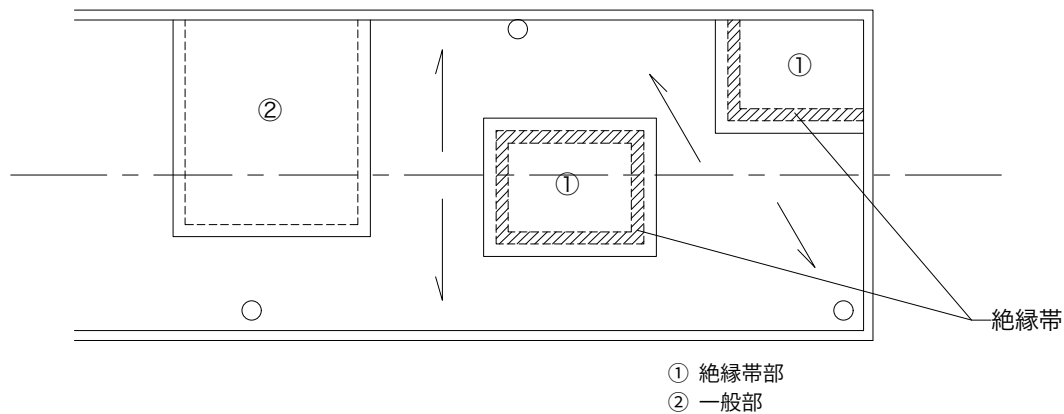
(注) 3. 工程 5 に複合工法を使用する場合は、工程 2 を省略する。

2章_2節 屋根露出防水部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.2.2

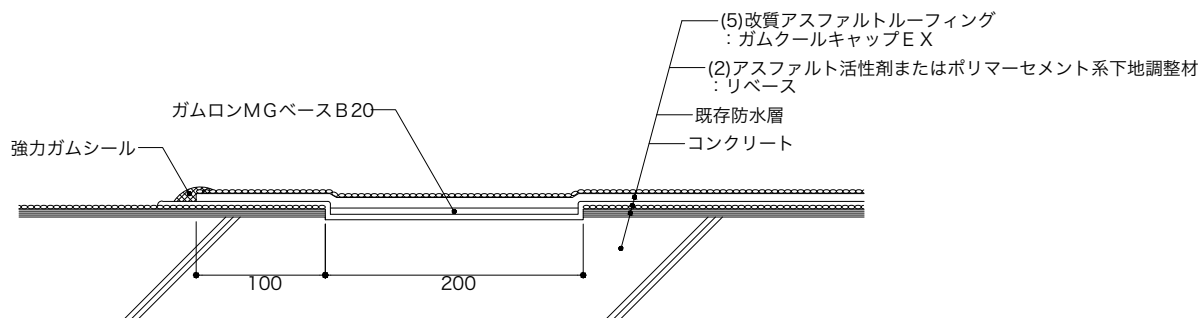
アスファルト防水常温工法 (P型)

■ 絶縁帯設置図 (例) 「仕様登録集」⇒ 336 ページ

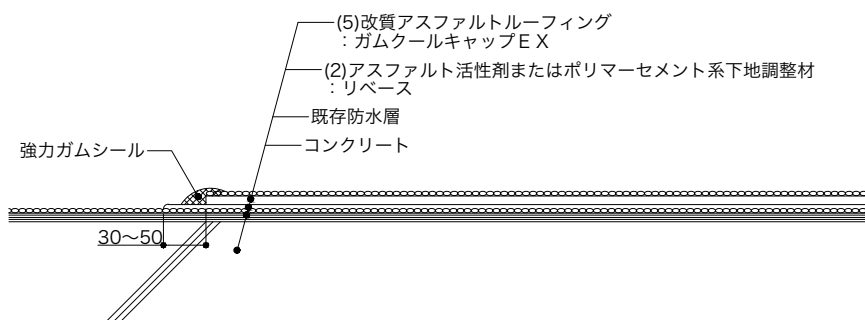


■ 納まり図 「仕様登録集」⇒ 337 ページ

① 絶縁帯部



② 一般部



2章_2節 屋根露出防水部分修繕工事

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理。

16kg/缶

アスファルト活性化剤

リベース



既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。

20kg/缶

不陸調整（製造所推奨品）

クールベース



水性ゴムアスファルト系下地調整剤。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース：8kg/缶
クールベースパウダー：16kg/袋

改質アスファルト（自着工法）

ガムクールキャップEX



表面が砕石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。

1m×8m 3.5mm厚
JIS A 6013

絶縁帯用ルーフィング

ガムロンMGベースB20



絶縁帯用にカットされた両面粘着の改質アスファルトテープ。

200mm×12m

ゴムアスファルト系シール材

強力ガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、端末部に使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ：20本/箱
20kg/缶 9kg/缶

変性シリコーン系シール材（製造所推奨品）

GCライン（カート/ジャンボ）



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコーン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート 各10本/箱
※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋根外断熱防水工法における防水層の非断熱部の修繕工事及びコンクリートブロック工法、アスファルト成形板工法による外断熱の部分修繕工事に適用する。

防水工法種別

- (1)当該修繕の防水工法は、2.1.1表によるアスファルト防水常温工法（非断熱部）とする。
- (2)当該修繕の断熱工法は、2.1.1表によるコンクリートブロック工法又はアスファルト成形板工法とする。

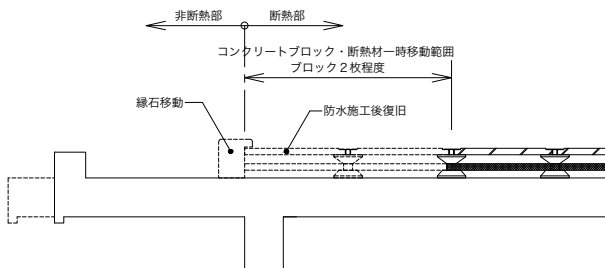
防水層（非断熱部）の修繕 詳細は「保全工事共通仕様書」⇒37ページ

- (1)施工範囲
- (2)施工準備
- (3)移動・撤去
- (4)下地処理

---- 仕上材（断熱押え・断熱材等）の移動及び一時保管 ----

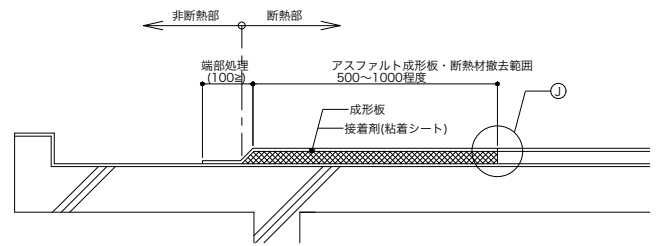
・コンクリートブロック工法

コンクリートブロック工法の場合、防水施工範囲に隣接する縁石とコンクリートブロック2枚程度、断熱材、ジョイナー、固定金物等を取外し移動する。取外した縁石、コンクリートブロック等は屋上に仮置き保管し、損傷がない場合、再利用する。ただし、縁石下の保護シート及びレベラー材は撤去する。



・アスファルト成形板工法

アスファルト成形板工法の場合、防水施工範囲に隣接する0.5mから1.0m程度の範囲のアスファルト成形板と断熱材を撤去する。除去できない断熱材・接着剤はバーナー等で溶解し平滑にする。役物周囲等の施工範囲は特記によるほか、監督員の指示による。



2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.2

アスファルト防水常温工法（非断熱部）

適用範囲

本項は、屋根外断熱防水工法における非断熱部の防水修繕に適用する。

材料

材料は、「仕様登録集」によるほか、次による。

イ プライマーは、ブローンアスファルト又は改質アスファルトを主成分とした速乾性のもの（以下「速乾性プライマー」という）で、改質アスファルトシートの接着に適するものとし、比重、加熱残分は製造所の仕様による。

なお、使用前に組成に変化を生じたものは、使用してはならない。

ロ アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材の加熱残分は65%以上とする。

ハ 常温工法用アスファルトコンパウンドは、製造所の仕様による。

ニ 改質アスファルトルーフィングは、JIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）に規定する単層用とし、

厚さは、2.3.2表による。なお、露出防水に使用する場合は砂付き（以下「砂付ルーフィング」という。）とする。

ホ 増張り材は、改質アスファルトルーフィングとなじみの良いシート状又はテープ状のもので、製造所の仕様による。

ヘ 防水層端部の止水に用いるシール材はゴムアスファルト系とし、品質は2.3.3表による。（製造所推奨品：GCライン）

ト 仕上塗料は、製造所の仕様による。

チ 防水押え金物の材質はアルミニウム製とし、形状及び寸法は特記による。

リ ナイロンプラグは軽量アンカー用ナイロンプラグとし、ステンレスビスで固定する。なお、寸法は特記による。

ニ：2.3.2表 改質アスファルトルーフィングの厚さ

用途による区分	厚さ	対応製品
露出防水用	3.0mm以上	ガムクールキャップEX
	4.0mm以上 (トーチバーナーを用いて施工するルーフィングの場合)	ポリマリットフェース
非露出防水用	2.5mm以上	—
	3.5mm以上 (トーチバーナーを用いて施工するルーフィングの場合)	ポリマリット35

ヘ：2.3.3表 ゴムアスファルト系シール材の品質

項目	品質	備考
容器の中での状態	固まりや沈殿がなく均質であること	試験方法は、JIS K 5600 (塗料一般試験方法-第1部:通則 -第1節:試験一般(条件及び方法)による。
加熱残分	70%以上	試験方法は、JIS K 5601 (塗料成分試験方法-第1部:通則 -第2節:加熱残分)による。
耐熱試験	発泡のないこと。 6mm以上のたれ、ずれがないこと。	試験方法は、建築工事標準仕様書(JASS8)による。
折曲げ試験	クラック、パネルからの剥離がないこと。	

2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.2

アスファルト防水常温工法（非断熱部）

I 工程

2.3.4 表 非断熱部の工程

工程	材料	使用量/㎡	種別	対応製品	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー (注)1、3	0.2kg	撤去方式	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材 (注)2	1.2kg (1.0kg) (注)2	かぶせ方式	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド (注)3	1.3kg (1.0kg) (注)2	—	—	—
4	改質アスファルトルーフィング	—	—	ポリマリットフェース (ガムクールキャップEX) ※	—
5	仕上塗料	製造所の 仕様による	—	SPファインカラー	0.4～0.6kg

※ 工程4で火気使用が出来ない場合は(ガムクールキャップEX)を用いる。

(注)1. 既存防水を撤去した箇所は、工程1の速乾性アスファルトプライマーを塗布する。

(注)2. 「かぶせ方式」による場合、工程1は省略し、工程2アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材を用いる。

この場合、工程3の使用量は()に示す。なお、既存防水層がアスファルト防水常温工法の場合、工程2の使用量は()に示す。

(注)3. 非断熱部で既存塗膜防水層がある場合は、工程1を層間プライマーとし、品質及び使用量は「仕様登録集」による。

(注)4. 自着工法及びトーチ工法の場合は、工程3を省略する。

2.3.5 表 非断熱部と隣接する断熱部の工程

工程	材料	使用量/㎡	種別	対応製品	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー (注)1、3	0.2kg	撤去方式	—	—
2	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材 (注)2	1.2kg (1.0kg) (注)2	かぶせ方式	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド (注)3	1.3kg (1.0kg) (注)2	—	—	—
4	改質アスファルトルーフィング	—	—	ガムクールキャップEX	—

(注)1. 既存防水層を撤去した箇所は、工程1による。

(注)2. 「かぶせ方式」による場合、工程1は省略し、工程2アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材を用いる。

この場合、工程3の使用量は()に示す。なお、既存防水層がアスファルト防水常温工法の場合、工程2の使用量は()に示す。

(注)3. 非断熱部で既存塗膜防水層がある場合は、工程1を層間プライマーとし、品質及び使用量は「仕様登録集」による。

(注)4. 自着工法及びトーチ工法の場合は、工程3を省略する。

II 防水工法

表-2 成形板表面補強部の工程 「仕様登録集」⇒387ページ

既存成形板工法の断熱部「成形板保護押え表面」の補強が必要な場合は特記により、工程は表-2による。

工程	品名(製品名)	使用量/㎡	工法名
1	リベース	1.2kg	はけ塗り
2	ガムクールキャップEX	—	ローラーで押えて密着させる
3	SPファインカラー(A-101)	0.3kg	ローラー または はけ塗り

2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.4

アスファルト成形板工法

適用範囲

本項は、屋根外断熱防水工法におけるアスファルト成形板の部分修繕に適用する。

材料

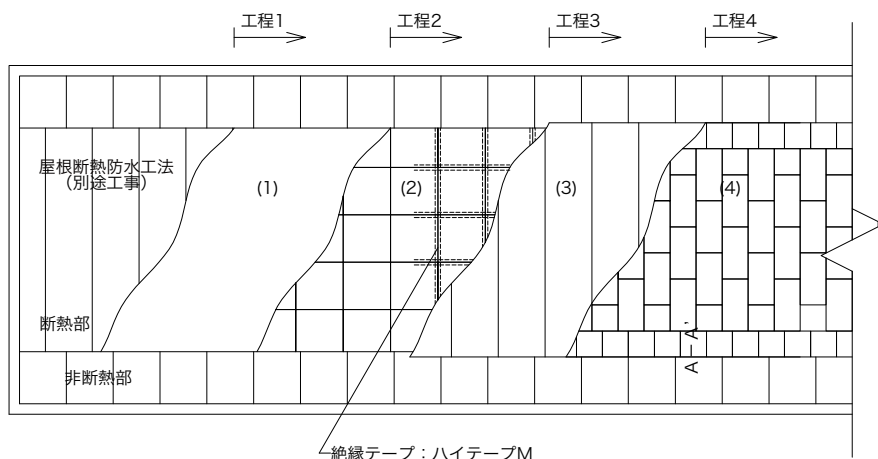
材料は、「仕様登録集」による。

工程

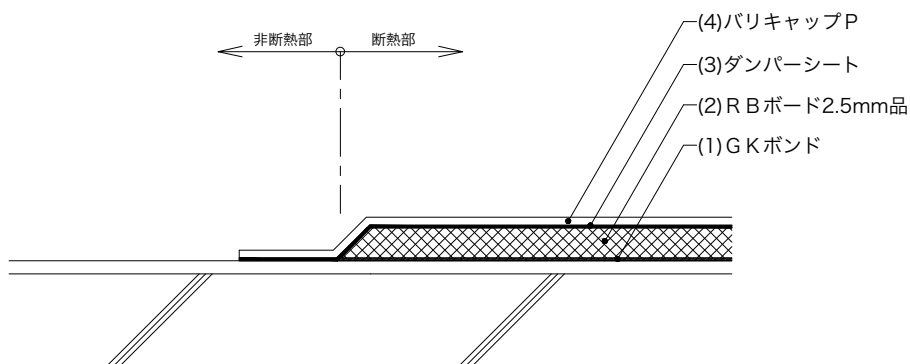
アスファルト成形板工法 断熱工法（断熱部）の工程

工程	用途	対応製品	使用量/m ²	用途・材質
1	接着剤	GKボンド	1.0kg	2成分タイプウレタン系反応硬化型接着剤
2	断熱材	RBボード25mm品	—	A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b (スキンあり)25mm
3	定型接着剤	ダンパーシート	—	断熱材及び成型板を張り付ける為の接着用ルーフィング
4	成形板	バリキャップP	—	表面にカラー砕石等を接着したアスファルトマスチック系保護用成形板
5	端末処理	強力ガムシール	—	特殊改質アスファルト系防水端末処理材

※ 在来工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法、もしくはPC・HPC工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法の防水層の上へ行う。



標準割付け図 (A - A')



2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

保全工事共通仕様書 2.3.4

アスファルト成形板工法

■ 施工要領 「仕様登録集」⇒ 363 ページ

(1) 下地処理（別途工事）

在来工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法、もしくは、PC・HPC工法建物の屋根外断熱防水工法アスファルト防水常温工法の防水層の上へ行う。

(2) 断熱工事

① 断熱材位置の墨出し

断熱材の張仕舞位置に墨を出す。この時RBボードの割付けも考慮する。

② GKボンドの攪拌

主剤 1：硬化剤 4を容器に計量し、混合攪拌する。（約3分以上）

（注）混合した材料は約1時間位から硬化が始まるため注意する。

特に夏場は気温が高いため、更に硬化が早くなる。

③ GKボンドの塗布

混合攪拌したGKボンドを専用くしはけを用いて、防水層の上に塗布する。

（塗布量：1.0kg/m²）

④ RBボードの張り付け

GKボンド塗布後、直ちにRBボードを張り付け、圧着する。

不陸部分はRBの表裏にカッターを入れ、下地に良く馴染むように圧着する。（納まりが悪い部分は重石を置く）

⑤ ダンパーシートの張り付け

断熱材上にダンパーシート裏面の剥離紙を剥がしながらラップ幅100mmとって張り付け、ローラー等で転圧する。

非断熱部防水層上は、強力ガムシール又はガムラップを塗布した上にダンパーシートを張り付ける。

⑥ バリキャップPの張り付け

割付け図に従って、ダンパーシート上面の剥離紙を取り除き、ゴム・アス層にバリキャップPを張り付ける。

バリキャップPは千鳥張りを標準とする（他の割付けを採用する場合は、監督員の承認を得る事）。

役物廻り等バリキャップPを切断する場合はカッターで行い、その取合いに隙間が生じた場合は強力ガムシールを充填し、彩色砂等で表面仕上げをする。

⑦ 端部処理

イ 溝部分の端部処理は、RBボードを斜めにカットして断熱部防水層にGKボンドを張り付ける。ダンパーシートを非断熱部防水層上まで張った後、バリキャップPを図のように50cm幅方向で張り込む。その際、バリキャップPの裏面をプロパンバーナーであぶり、ダンパーシートになじませ張り重ねる。

ロ ダンパーシートを非断熱部防水層上に接着する場合は、ガムラップ又はガムシールを塗布し、砂付面の接着性を高めてから張り付ける。

2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理。

16kg/缶

アスファルト活性化剤

リベース



既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。

20kg/缶

不陸調整（製造所推奨品）

クールベース



水性ゴムアスファルト系下地調整剤。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース：8kg/缶
クールベースパウダー：16kg/袋

仮防水材

アスグラウンド



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグラウンド：9kg/缶
グラウンドパウダー：12kg/袋

防湿シート

ダンパーシート



両面に粘着層を設けた、露出断熱防水用の防湿シート。

1m×32m巻
厚さ：0.8mm（粘着層を含む）

改質アスファルトシート（トーチ工法）

ポリマリットフェース



表面に碎石砂を圧着した露出防水用キャップシート。

1m×8m 4.0mm厚
JIS A 6013

改質アスファルトシート（トーチ工法）

ポリマリット35



表面を細砂で仕上げたシート。

1m×8m 3.5mm厚
JIS A 6013

改質アスファルトシート（自着工法）

ガムクールキャップEX



表面が碎石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。

1m×8m 3.5mm厚
JIS A 6013

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする日射反射率70%以上の水性高反射保護塗料。

18kg/缶

2章_3節 屋根外断熱等部分修繕工事

対応製品紹介

ゴムアスファルト系シール材

強力ガムシール



防水層の張仕舞、端末部に使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ：20本/箱
20kg/缶 9kg/缶

変性シリコーン系シール材（製造所推奨品）

GCライン（カート／ジャンボ）



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変性シリコーン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート 各10本/箱
※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

アスファルト成形板

バリキャップP



砂粒を隙間なく密着させた板状成型品の保護仕上げ材。
裏面の保護フィルムを剥がして施工する。
（粘着層はついていません）

6.0mm厚 0.5m×1m

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋根外断熱露出防水工法における防水層の修繕工事に適用する。

防水工法種別

(1)当該修繕の防水工法は、2.1.1表による次の工法とし、その適用は特記による。

- イ 外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）
- ロ 外断熱露出アスファルト防水工法（非断熱部分修繕）
- ハ 外断熱露出アスファルト防水工法（断熱部分修繕）
- ニ 外断熱加硫ゴム系ルーフィングシート防水工法（全面修繕1回目）

(2) (1) のロ又はハによる部分修繕の材料は、既存防水層と同材とする。

施工範囲

(1)全面修繕工事

既存防水層の断熱部及び非断熱部全面の修繕工事を行う。

(2)部分修繕工事

既存防水層の非断熱部又は断熱部の部分的な修繕を行う。

移動・撤去

(1)全面修繕工事

イ 既存コンクリートブロック及びアスファルト成型板、既存断熱材は全面撤去する。

ロ 既存防水層の断熱部及び非断熱部の撤去範囲は下記による。

- ①架台、マンホール、通気管、パラペット等の立上り防水層。ただし、2.4.5外断熱加硫ゴム系ルーフィングシート防水工法（全面修繕1回目）の場合、立上り部と周囲150mmの平場防水層。
- ②防水層の下に水が廻った箇所の周囲300mmの平場防水層。
- ③たて型ドレンの中心から周囲500mmの平場防水層。
- ④横引きドレン金物端部から300mmの平場防水層。

ハドレンの上皿・ストレーナー等は撤去する。

ニ 既存防水の端部押え金物は撤去する。

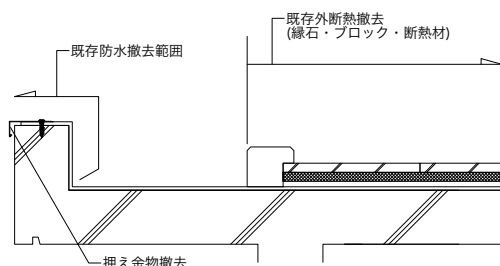
ホ 通気管の切断、取替えは特記による。

ヘ パラペットのTVアンテナ引込架台等の取外し、再取付けは特記による。

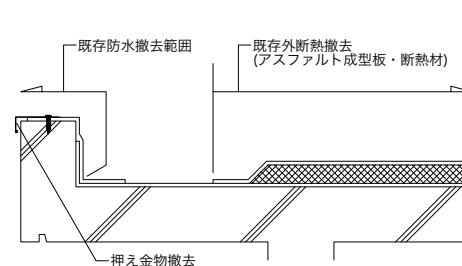
(2)部分修繕の撤去範囲は特記によるほか、監督員の指示による。

---- 現状・撤去範囲 ---- 「品質判定基準」⇒ 82 ページ

①コンクリートブロック工法

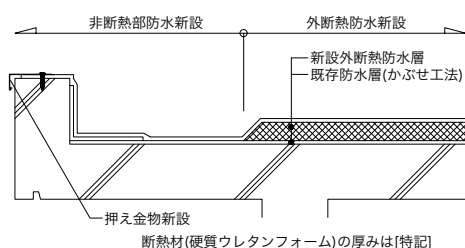


②成型板工法



---- 修繕工法 ----

「品質判定基準」⇒ 82 ページ



2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）

適用範囲

本項は、アスファルト成形板、コンクリートブロック及びアスファルト露出防水等を施した屋根を外断熱露出アスファルト防水工法による全面修繕する工事に適用する。

下地処理

(1)施工範囲は、特記によるほか、監督員の指示による。

(2)既存断熱材を全面撤去し、既存防水層の下に水が廻っている箇所及び漏水している箇所は、既存防水層を撤去する。

(3)既存防水層撤去部及びかぶせ部の下地処理は次による。

イ かぶせ部の下地処理は、2.2.2（アスファルト防水常温工法（P型））の2（1）によるほか、断熱材を撤去した部分は全面清掃し、水気が無いように乾燥させる。なお、除去できない断熱材又は接着剤はバーナー等で溶解し平滑にする。

ロ 撤去部の下地は、2.2.2（アスファルト防水常温工法（P型））の2（2）によるほか、次による。

①既存平場防水層を撤去した範囲は、アスファルトプライマーを塗布した後、2.3.2の2ホの増張りを行う。なお、増張り材の張り掛け寸法は150mm以上とする。

②ドレン下皿が露出するように周囲コンクリート及びモルタルを穏やかな勾配となるよう撤去し、メンテモルタルで補修する。

存置するドレン下皿は清掃後、防錆塗装をし、改修用ドレンを設置する。なお、水抜き用シートを設置する場合は特記による。

ハ 架台天端を塗膜防水とする場合は、2章8節（屋上架台・庇等防水工事）による。

ニ アゴのある架台天端等を塗膜防水とする場合はアゴ下端に50mm程度のアルミ水切り金物を取り付ける。ただし、アゴの出が50mm以下又はアゴ下の高さがスラブより300mm以下の場合はアゴ下をメンテモルタル等で埋める。

ホ 使用されていないことが確認された豎管の切断は、監督員の指示による。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

イ 新規断熱材は、JIS A 9521（建築用断熱材）による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号もしくは2号又は3種1号もしくは2号とし、厚さは特記による。ただし、硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号の場合は、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるものとする。

ロ 新規断熱材取付けに使用する接着剤又は粘着剤は、製造所の仕様による。

ハ アスファルト防水常温工法に使用するプライマーは2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の2イ、アスファルト活性化剤又はポリマーセメント系下地調整材は2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の2ロによる。

ニ アスファルトコンパウンドは、常温工法用アスファルトコンパウンド又は同等のものとし、製造所の仕様による。

ホ 改質アスファルトルーフィング（単層用）は、JIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）に規定する露出単層防水用とし、厚さは2.3.2表により、砂付ルーフィングとする。

ヘ 部分粘着型通気絶縁用シートは、2.6.2（脱気絶縁複合防水（非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目））の1ニによる。

ト 増張り材、ゴムアスファルト系シール材、仕上塗料及び防水押え金物は、2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の2ホからチによるほか、製造所の仕様による。

チ 断熱材張り継ぎ部補強用テープは、製造所の仕様によるものとし、幅50mm以上とする。

リ 改修用ドレンは2.6.2（脱気絶縁複合防水（非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目））の1ルによる。

ヌ 塗膜防水工法の材料は、2.8.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法）の1による。

ル 水抜きシートは、製造所の仕様による。

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）

I 工程

2.4.1 表 断熱部（平場）既存防水層の下地処理工程

工程	材料	使用量/㎡	種別		対応製品	使用量/㎡
			かぶせ方式	撤去方式		
1	不陸調整	—	○	○	リグレー・ネオ(製造所推奨品:クールベース)	—
2	常温工法用アスファルトコンパウンド等(応急処理用) (注)	1.2kg	○	—	—	—
	アスファルト活性化剤 又は ポリマーセメント系下地調整材 (注)	1.0kg	○	—	リベース	1.0kg
3	速乾性プライマー	0.2kg	—	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
4	増張り用シート	—	—	○	ポリマリット25 ※	—

※ 火器（バーナー）を使用できない場合は、ポリマリット GL に変更する場合がある。

(注) 工程2で常温工法用アスファルトコンパウンド等を塗布した範囲は工程2アスファルト活性化剤又はポリマーセメント系下地調整材を省略する。

2.4.2 表 断熱部（平場）の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	接着剤 (注)1	—	レイコーセメント	0.8kg
	粘着材(部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等)	—	—	—
2	硬質ウレタンフォーム (注)2	—	ギルフォーム	—
3	断熱材張り継ぎ部補強用テープ W≧50mm	—	ハイテープM-50	—
4	部分粘着型通気絶縁用シート	—	ポリマリットPS	—
5	改質アスファルトルーフィング(露出単層防水用)	—	ポリマリットフェース	—
6	仕上塗料	—	製造所の仕様による SPファインカラー	0.4～0.6k

(注) 1. 工程1の接着剤は、部分接着（点張り）又は全面接着により、種別は製造所の仕様による。

(注) 2. 工程2の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2.4.3 表 断熱部及び非断熱部（立上り部）の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	速乾性プライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	増張り用シート	—	ポリマリット25 ※	—
3	改質アスファルトルーフィング(露出単層防水用)	—	ポリマリットフェース	—
4	ゴムアスファルト系シール、押え金物	—	強カガムシール(製造所推奨品:GCライン)	—
5	仕上塗料	—	製造所の仕様による SPファインカラー	0.4～0.6k

※ 火器（バーナー）を使用できない場合は、ポリマリット GL に変更する場合がある。

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）

I 工程

2.4.4 表 非断熱部（平場）の工程

工程	材料	使用量/㎡	種別		対応製品	使用量/㎡
			かぶせ方式	撤去方式		
1	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材	1.0kg	○	—	リベース	1.0kg
	速乾性プライマー	0.2kg	—	○	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	増張り用シート（注）1	—	○	○	ポリマリット25 ※	—
3	部分粘着型通気絶縁用シート（水抜きシートを設置する場合） （注）2	—	○	○	ポリマリットPS	—
4	改修用ドレン（注）3	—	○	○	リードレンC	—
5	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）（注）4	—	○	○	ポリマリットフェース	—
6	仕上塗料	製造所の 仕様による	○	○	SPファインカラー	0.4～0.6k

※ 火器（バーナー）を使用できない場合は、ポリマリットGLに変更する場合がある。
（注）1. 工程2は「かぶせ方式」の場合により、取付け範囲は2.4.2の4口①による。
（注）2. 工程3は水抜きシートを設置する場合に適用する。
（注）3. 工程4は既存ドレンに取り付ける。なお、水抜きシート等を設置する場合は特記による。
（注）4. 工程5は外断熱保護防水層に接続する。

II 施工

・増張り

架台、マンホール等の入隅部、出隅部角、通気管廻り、パラペット廻り及びドレン廻りは、アスファルト活性剤又はポリマーセメント系下地調整材を塗布した後、2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の2ホの増張りを行う。

なお、増張り材の各部への張り掛け寸法は2.4.5表による。

2.4.5 表 増張り材張り掛け寸法

施工部位	張り掛け寸法(mm)		
	立上り部分	平場部分	
		断熱部（注）3	非断熱部（注）2
架台、マンホール等の入隅部、出隅角	150以上	150以上	—
通気管廻り	150以上	200以上	150+200以上
パラペット廻り	150以上	—	150+200以上
ドレン廻り	たて型（注）1	—	500+150以上
	横引き（注）1	250以上	300+150以上

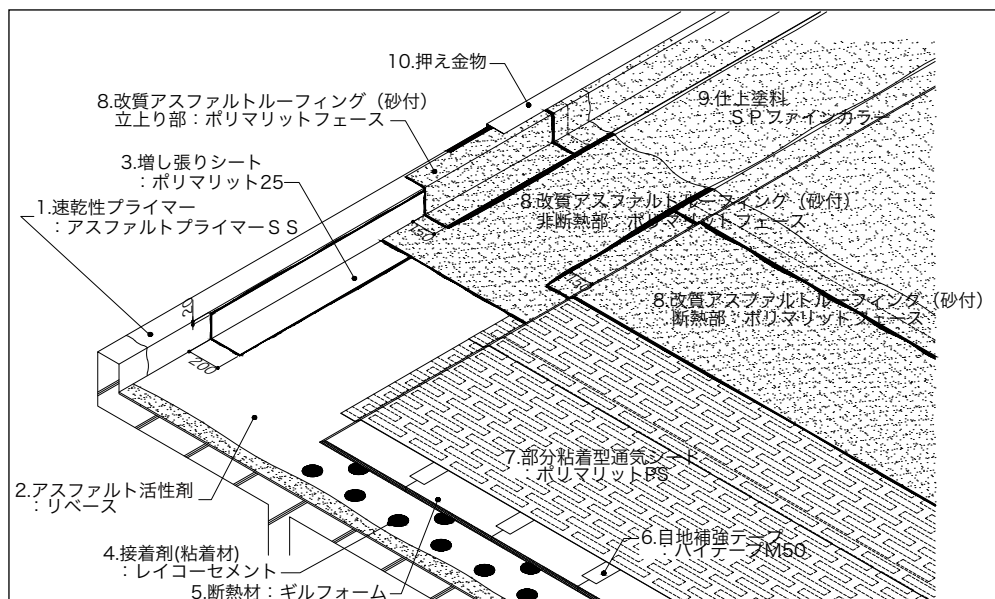
（注）1. たて型はドレン中心からの寸法を示し、横引きはドレン金物端部からの寸法を示す。
（注）2. 張り掛け寸法（非断熱部）の+表示は新規防水層に対する張り掛け寸法を示す。
（注）3. 張り掛け寸法（断熱部）は、断熱材上の新規防水層に対する張り掛け寸法を示す。

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

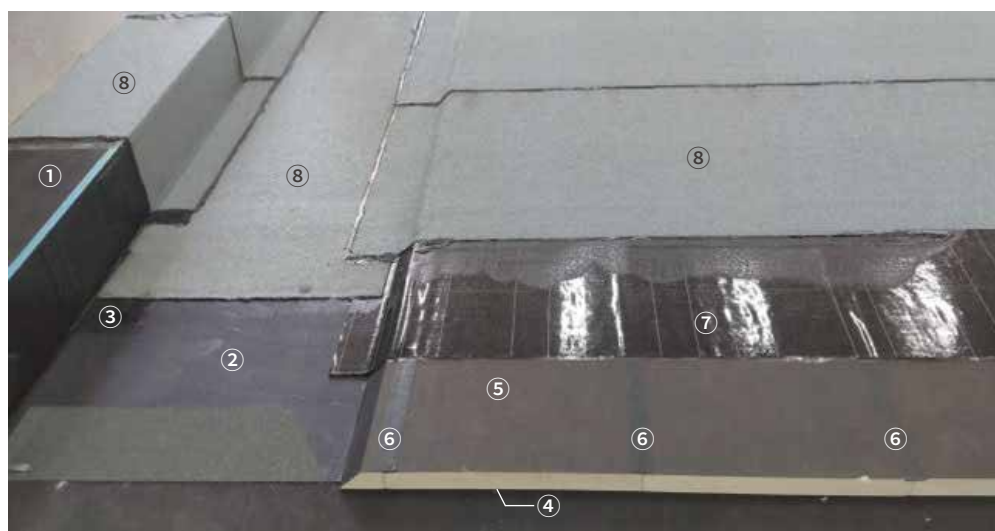
外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）

標準納まり図

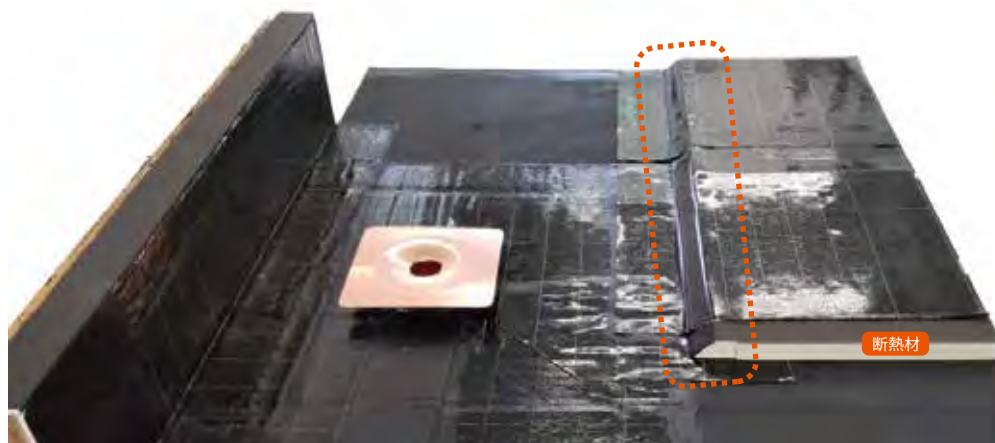


既存防水層へのかぶせ方式範囲(断熱部等)	
2	アスファルト活性剤
4	断熱材用接着剤(粘着材)
5	硬質ウレタンフォーム
6	自地補強用テープ
7	改質アスファルトシート (部分粘着型通気絶縁用シート)
8	改質アスファルトルーフィング(砂付)
9	仕上塗料

既存防水層撤去範囲(立上等)	
1	アスファルトプライマー(撤去範囲)
3	増張り用シート
8	改質アスファルトルーフィング(砂付)
9	仕上塗料
10	押え金物



断熱材面取り



断熱部の面取りについて

断熱材の水下側の端部は斜め40°以下にカットし上面は面材付きとする。
 なお、当該部分において防水層に浮きが生じないように張り付ける。
 また、コーナーキャント材を用いる場合は、硬質ウレタンフォームを斜め上側表面が面材付となるよう加工したカット品とし、取付けには接着剤又は粘着テープ等を用いる。

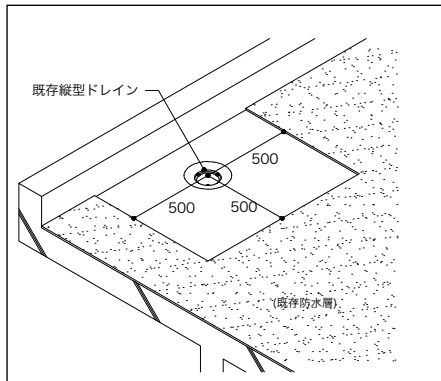
2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.2

外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目）

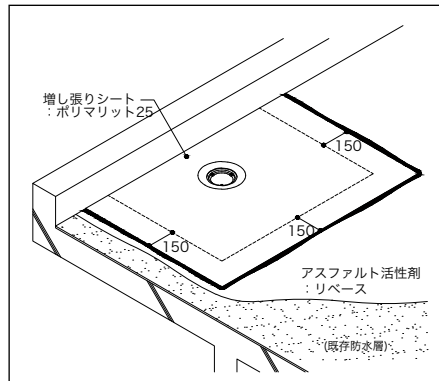
水抜きシート工程（ポリマリットPS）

1. 既存防水層撤去



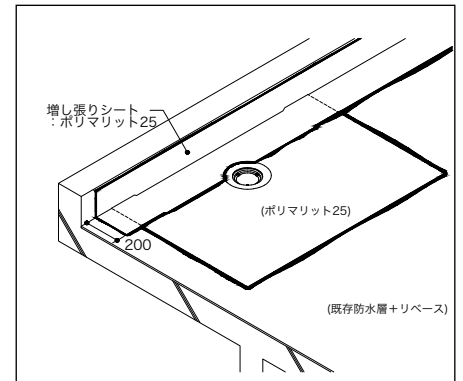
ドレン中心より周辺部500mm程度撤去

2. ドレン廻り増張り



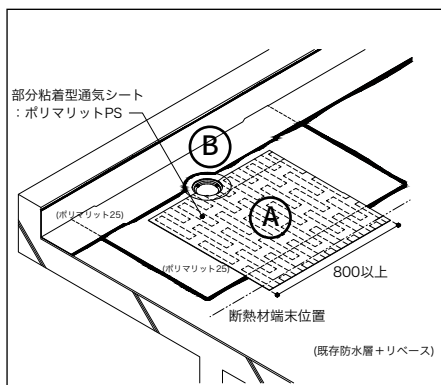
既存防水層に150mm以上張り掛ける
製品名：ポリマリット25

3. 入隅部増張り



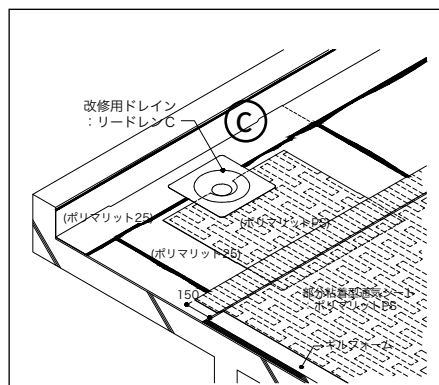
平場に200mm以上張り掛ける
製品名：ポリマリット25

4. 水抜きシート張付け



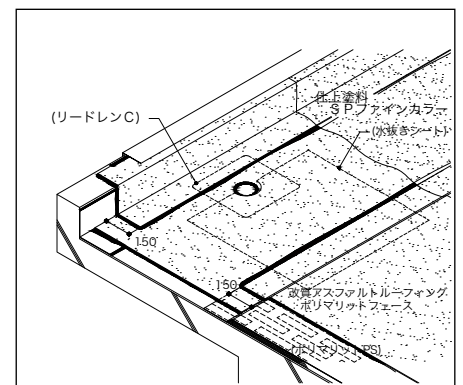
幅800mm以上ドレン中央部から断熱材下に掛かるまで張り付ける
製品名：ポリマリットPS

5. 改修用ドレン設置



製品名：リードレンC
断熱材：ギルフォーム
部分粘着型通気絶縁用シート：ポリマリットPS

6. 改質アスファルトルーフィング張付け（露出単層防水用）

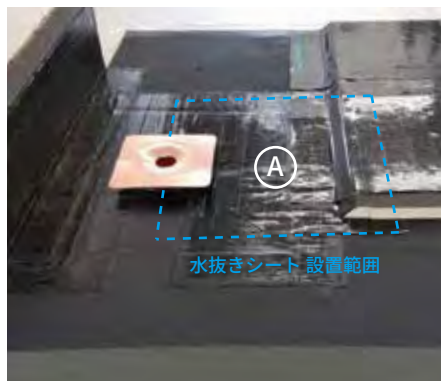


製品名：ポリマリットフェース

ドレン廻り納まり

ドレン下皿が露出するように周囲コンクリート及びモルタルを穏やかな勾配となるよう撤去し、メンテモルタルで修繕する。存置するドレン下皿は清掃後、防錆塗装をし、改修ドレンを設置する。なお、水抜きシートを設置する場合は特記による。

ドレン廻り納まり（水抜きシート ポリマリット PS）



2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.3

外断熱露出アスファルト防水工法（非断熱部分修繕）

適用範囲

本項は、既存外断熱露出アスファルト防水工法の非断熱部を部分修繕する工事に適用する。

下地処理

下地処理は、2.2.2（アスファルト防水常温工法（P型））による。

材料

材料は、2.2.2（アスファルト防水常温工法（P型））による。

工程

2.2.1表 アスファルト防水常温工法（P型）の工程

①絶縁帯部

工程	材料	使用量/m ²	種別 ※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg以上	—	○	—	—
2	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg) (注)1	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○	—	—
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—	—	—
5	改質アスファルトルーフィング (注)2、3	—	○	○	ガムクールキャップEX	—
絶縁帯	絶縁帯用ルーフィング	—	—	—	ガムロンMGベースB20	—

②一般部

工程	材料	使用量/m ²	種別 ※		対応製品	使用量/m ²
			かぶせ方式	撤去方式		
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg以上	—	○	—	—
2	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (1.0kg) (注)1	○	—	リベース	1.2kg
3	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.2kg	—	○	—	—
4	常温工法用アスファルトコンパウンド	1.5kg	○	—	—	—
5	改質アスファルトルーフィング (注)2、3	—	○	○	ガムクールキャップEX	—

※ 既存防水層の劣化が著しい部分は「撤去方式」とし、それ以外は「かぶせ方式」とする。なお、「撤去方式」とする範囲は特記による。

(注) 1. 工程 2 の () 内の数値は既存防水層がアスファルト常温工法の場合に適用する。

(注) 2. 工程 5 に溶着型（トーチ工法）、自己接着型（自着工法）を使用する場合は、工程 3 及び工程 4 を省略する。

(注) 3. 工程 5 に複合工法を使用する場合は、工程 2 を省略する。

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

保全工事共通仕様書 2.4.4

外断熱露出アスファルト防水工法（断熱部分修繕）

適用範囲

本項は、既存外断熱露出アスファルト防水工法の断熱部を部分修繕する工事に適用する。

下地処理

詳細は「保全工事共通仕様書」⇒46～47ページ

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」及び2.4.2（外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目））によるほか、次による。

イ 新規断熱材の厚さは、既存断熱材と同じ厚さとする。

ロ 自己粘着型シートはJIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）に規定する非露出複層防水用で、厚さは1.5mm以上とし、製造所の仕様による。

ハ 脱気装置は、腐食しにくい材質の強固なもので、ステンレス製を標準とする。形状は、排気口の径が40mm以上、高さは180mm以上のものとし、製造所の仕様による。

工程

2.4.6 表 既存防水層（断熱材を含む）撤去部の範囲の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	接着剤（注）1	—	レイコーセメント	0.8kg
	粘着材（部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レベラー材等）	—	—	—
2	硬質ウレタンフォーム（注）2	—	ギルフォーム	—
3	断熱材張り継ぎ部補強用テープ W≧50mm	—	ハイテープM-50	—
4	部分粘着型通気絶縁用シート	—	ポリマリットPS	—
	自己粘着型シート	—	—	—
5	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	ポリマリットフェース	—
6	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6k

（注）1. 工程1の接着剤は、部分接着（点張り）又は全面接着により、種別は、製造所の仕様による。
（注）2. 工程2の硬質ウレタンフォームの厚さは既存断熱材と同じ厚さとする。

2.4.7 表 かぶせ部の範囲の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	アスファルト活性剤 又は、ポリマーセメント系下地調整材	1.0kg	リベース	1.0kg
2	改質アスファルトルーフィング（露出単層防水用）	—	ポリマリットフェース	—
3	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6k

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

対応製品紹介

速乾性プライマー
アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理。

16kg/缶

アスファルト活性化剤
リベース



既存防水層を活性化させるアスファルト系下地活性化剤。

20kg/缶

不陸調整（製造所推奨品）
クールベース



水性ゴムアスファルト系下地調整剤。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース：8kg/缶
クールベースパウダー：16kg/袋

仮防水材
アスグランド



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド：9kg/缶
グランドパウダー：12kg/袋

断熱材用接着剤
レイコーセメント



改質アスファルトをペースト状に仕上げたギルフォーム用接着剤。

18kg/缶

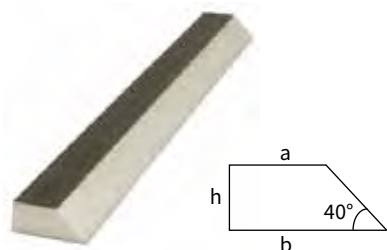
断熱材（硬質ウレタンフォーム）
ギルフォームS/W



ノンフロントタイプの外断熱用硬質ウレタンフォーム。SとWの2サイズあり。

S：605mm×910mm W：1,200mm×900mm
厚さ：25/30/35/40/50/60/70/75mm
※Sの70、75mmは受注生産品。Wは全種受注生産品。

コーナーキャント材
テーパフォームUR



側溝部やドレン廻りの断熱材面取り作業簡易化を目的とした、ギルフォームのプレカット部材。

製品名	勾配	厚さ		寸法(mm)			梱包数/箱
		h(mm)	a	b	長さ		
テーパフォームUR	40°	50	50	110	910	24枚	
		60		122		20枚	

断熱材張り継ぎ部 補強用テープ
ハイテープM-50



片面粘着の改質アスファルトテープ。断熱材ジョイント部の補強に使用。

50mm×20m
24巻/箱

2章_4節 屋根外断熱露出防水工事

対応製品紹介

部分粘着型通気絶縁用シート（水抜きシート）

ポリマリットPS



裏面に粘着層をストライプ状に配した絶縁通気用改質アスファルトシート。

1m×16m 1.5mm厚（粘着層を含まない）
JIS A 6013

増張り用シート（トーチ工法）

ポリマリット25



2層工法に用いる下貼り及びび立上り部用シート。

1m×8m 2.5mm厚
JIS A 6013

増張り用シート（自着工法）

ポリマリットGL



下張り用改質アスファルトシートで、裏面全面にゴムアス層を設けた密着工法用シート。

1m×8m 2.0mm厚
JIS A 6013

改質アスファルトシート（トーチ工法）

ポリマリットフェース



表面に碎石砂を圧着した露出防水用キャップシート。

1m×8m 4.0mm厚
JIS A 6013

改質アスファルトシート（自着工法）

ガムクールキャップEX



表面が碎石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。

1m×8m 3.5mm厚
JIS A 6013

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする日射反射率70%以上の水系高反射保護塗料。

18kg/缶

ゴムアスファルト系シール材

強力ガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、端末部に使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ：20本/箱
20kg/缶 9kg/缶

変性シリコン系シール材（製造所推奨品）

GCライン（カート／ジャンボ）



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変性シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート 各10本/箱
※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

絶縁帯用ルーフィング

ガムロンMGベースB20



絶縁帯用にカットされた両面粘着の改質アスファルトテープ。

200mm×12m

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.1

一般事項

適用範囲

本節は、開放使用している建物の屋上で防水層保護コンクリートを施した防水の修繕工事に適用する。

防水工法種別

(1)当該修繕の防水工法は、2.1.2表による次の工法とし、その適用は特記による。

- イ 歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）
- ロ 歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕2回目以降）
- ハ 歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法（部分修繕）
- ニ 歩行用ポリマーセメント系塗膜防水工法（全面修繕1回目）
- ホ 歩行用ポリマーセメント系塗膜防水工法（全面修繕2回目以降）
- ヘ 歩行用ポリマーセメント系塗膜防水工法（部分修繕）
- ト 軽歩行用加硫ゴム系ルーフィングシート防水工法（全面修繕1回目）

(2)部分修繕は、既存防水層と同材を使用する。



防水層保護コンクリート（既存）



歩行用ウレタンゴム系塗膜防水（（1）イ・ロ・ハ）

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2

脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕 1回目）

適用範囲

本項は、既存防水層保護コンクリートを施した防水を歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法により全面修繕する工事に適用する。

下地処理

既存防水層保護コンクリート仕上げ等（以下「保護コンクリート等」という。）の下地補修は、次による。

なお、施工範囲は、特記よるほか、監督員の指示による。

イ 保護コンクリート等の脆弱部分は撤去し、欠損部をメンテモルタル等で補修する。

なお、撤去に際しては、既存防水層に損傷を与えないようにする。

ロ 保護コンクリート等のひび割れ及び不陸等は、メンテモルタル又はメンテペースト等を用いて補修する。

ハ パラペット等のモルタル浮き部分は、エポキシ樹脂注入を行うものとし、工法は3.2.3（エポキシ樹脂注入工法及び注入口付きアンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法）による。

ニ ルーフドレン廻りのモルタル等は、はつり取り、下皿を露出した上にメンテモルタルを用いて補修する。

ホ 保護コンクリート等の表面付着している塵あい及び油類等は、デッキブラシ等を用いて除去する。

ヘ フェンス支柱等の根元は、塗料及び錆をワイヤーブラシ等を用いて除去し、ポリウレタン系シーリング材で処理する。

ト 伸縮目地部分は、目地材を撤去清掃後、ポリエチレン等のバックアップ材のうえ、ポリウレタン系シーリング材を充填する。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

イ 通気緩衝シートを下地に接着するために用いる接着剤は、製造所の仕様とし、既存モルタル又は保護コンクリート等に良好に接着する製品とする。

ロ プライマーは、製造所の仕様とし、防水層と下地とのなじみを良くし、ピンホールのないようにすると同時に、接着力を適度に保たせる製品とする。

ハ 通気緩衝シートは、製造所の仕様とし、塗膜防水材となじみ良く一体化し、下地挙動に対する追従効果や通気効果を有し、かつ寸法安定性に優れた製品とする。

ニ 塗膜防水材は、JIS A 6021（建築用塗膜防水材）によるウレタンゴム系高伸長形に適合する製品とし、プライマー、塗膜防水材及び仕上塗料は厚生労働省の「室内空気汚染に係るガイドライン」に室内濃度指針値が定められた化学物質を使用しないもの（以下「環境配慮型」という。）とする。

ホ 層間プライマーは、製造所の仕様とし、塗膜防水材と無機質系防水保護塗料との接着を良好にする製品とする。

ヘ 無機質系防水保護塗料は、製造所の仕様とし、塗膜防水材を大気中の紫外線、オゾン等から保護するとともに、外部の衝撃から塗膜防水層を保護する硬質の仕上材とする。

ト 補強布は、製造所の仕様とし、塗膜防水材となじみ良く一体化して補強効果を有し、寸法安定性に優れた製品とする。

チ シーリング材は、JIS A 5758（建築用シーリング材）によるものとし、特記なき限り、2成分形ポリウレタン系シーリング材とする。

リ 脱気装置は、製造所の仕様とし、素材は、腐食のない強固なものとする。

又 改修用ドレンは、製造所の仕様による。

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2

脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕 1回目）

I 工程

2.5.1 表 脱気絶縁部（平場部）の工程

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	接着剤	0.2kg 以上	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg	OTプライマー-A	0.2kg
	プライマー (注)1	0.15kg 以上						
2	通気緩衝シート (注)1、2、3	—	オルタックシートWS	—	オルタックシートWS	—	オルタックシートWS	—
3	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)4	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	2.0kg
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)4	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	1.9kg
5	層間プライマー	0.1kg 以上	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg 以上	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg 以上	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg 以上
6	無機質系防水保護塗料 (注)5	1.0kg 以上	SPミネラコート	1.0kg 以上	SPミネラコート	1.0kg 以上	SPミネラコート	1.0kg 以上

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注) 1. 工程 1 のプライマーは、工程 2 に自己接着型の通気緩衝シートを使用する場合に用いる。

(注) 2. 工程 2 の通気緩衝シートは、ポリマー改質アスファルトシート又はゴムシートとし、合成繊維不織布を使用する場合は、ウレタンゴム系塗膜防水材の塗布量を 4.5kg 以上とし、塗膜防水材の塗布工程を 3 工程に分けて塗布する。

(注) 3. 工程 2 の通気緩衝シートは、脱気機能を有するものとする。

(注) 4. 工程 3、4 のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が 1.0 である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 5. 工程 6 の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.2 表 庇、架台天端及び立上り部等の工程

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	OTプライマー-A	0.2kg以上	OTプライマー-A	0.2kg以上	OTプライマー-A	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1	0.5kg	立上り用 オルタックエース	0.5kg	オルタックサンキュアT	0.5kg	オルタックサンキュアT	0.5kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	—	メッシュUB	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1	1.0kg	立上り用 オルタックエース	1.4kg	オルタックサンキュアT	1.4kg	オルタックサンキュアT	1.4kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1	1.0kg	立上り用 オルタックエース	1.4kg	オルタックサンキュアT	1.4kg	オルタックサンキュアT	1.4kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマー-Mブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料 (注)2	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注) 1. 工程 2、4、5 のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が 1.0 である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. 工程 7 の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

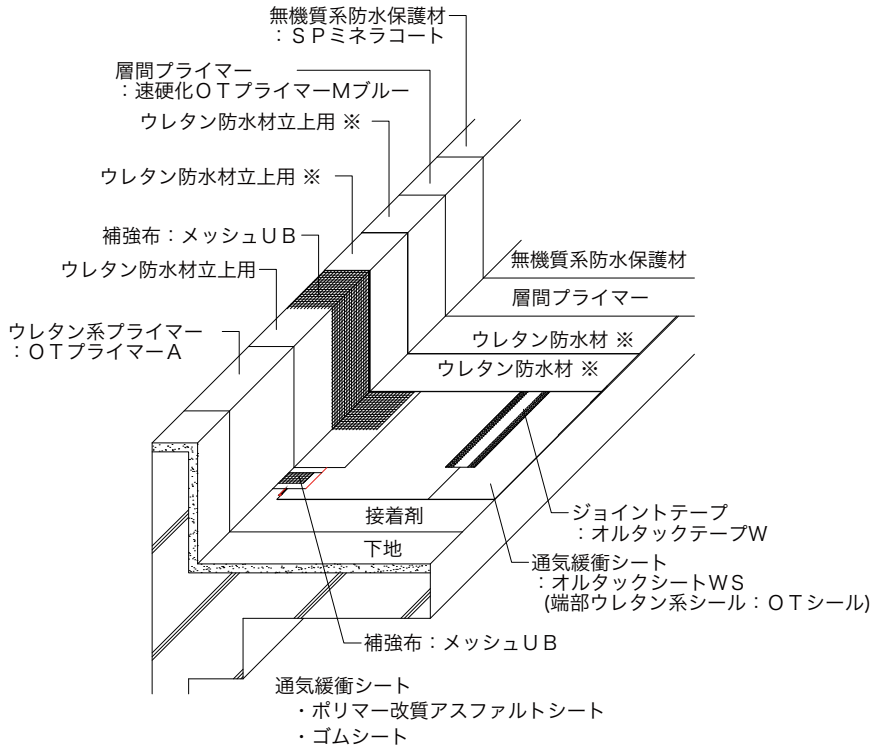
2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2

脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目）

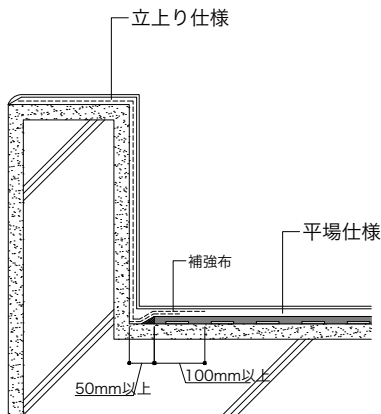
標準納まり図

1. 全体図

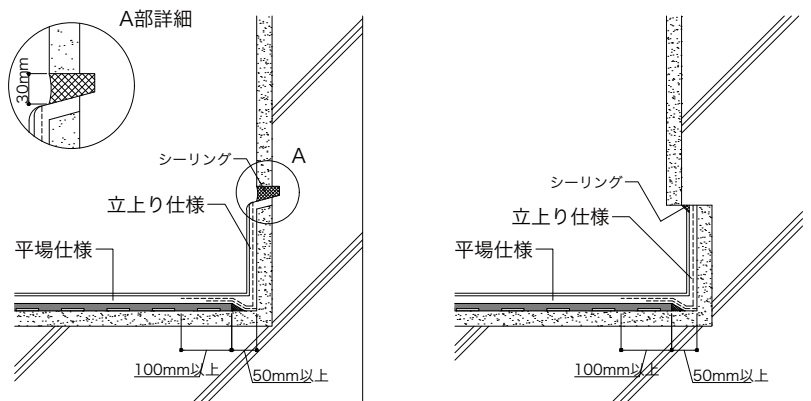


※ ウレタン塗膜防水材
オルタックエース／オルタックサンキュア／
オルタックサンキュア50・500から選定可能

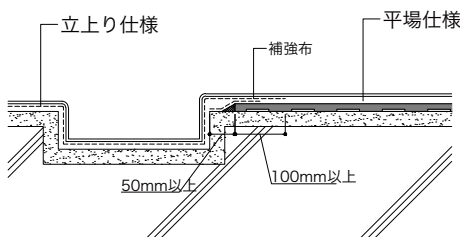
2. パラペット



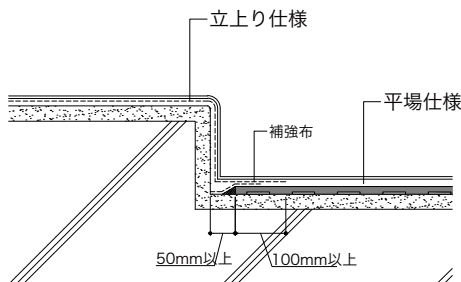
3. 壁面立上り



4. 側溝部



5. 架台まわり



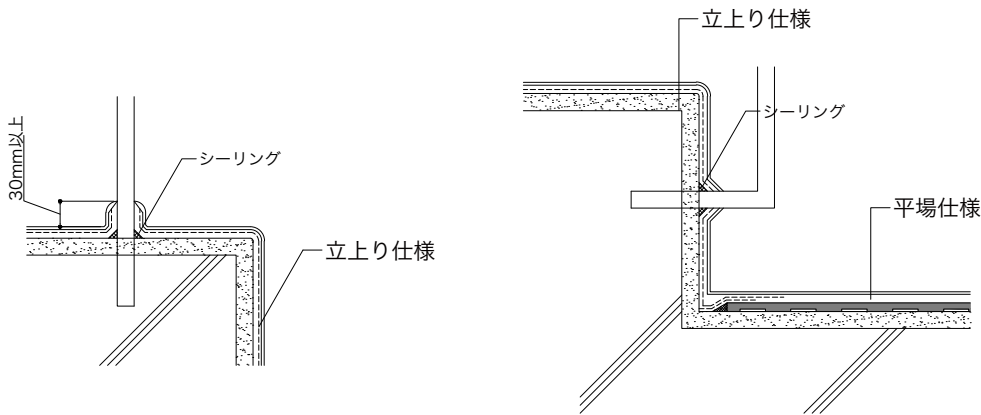
2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.2

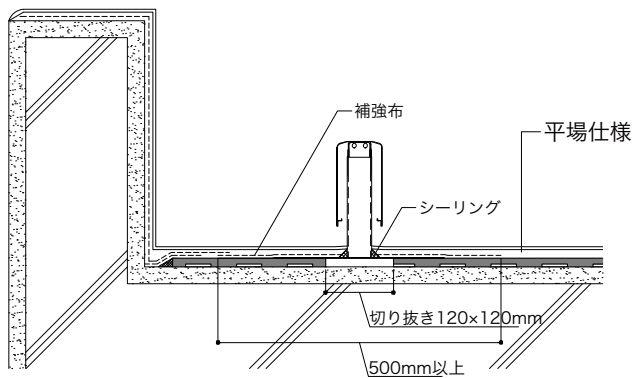
脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目）

標準納まり図

6. 手すり等支柱まわり



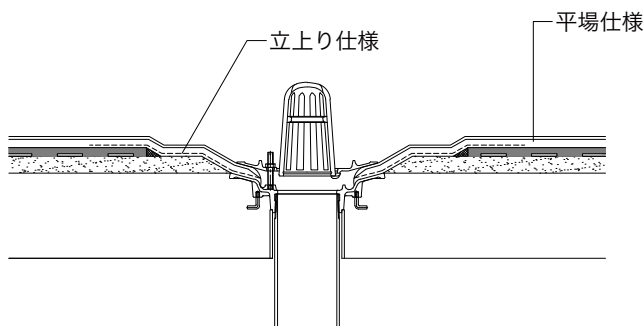
7. 脱気筒取り付け



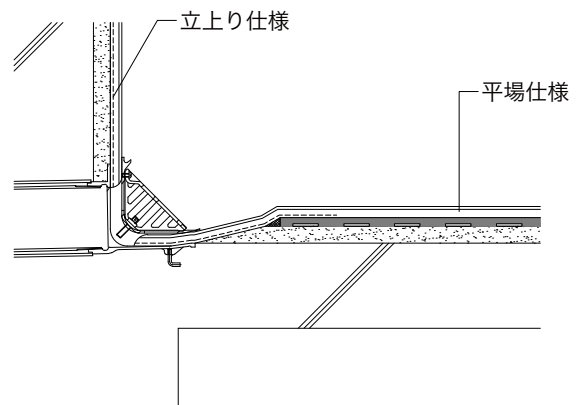
<脱気装置>

脱気装置（エア抜き）は伸縮目地の交差する位置を選び、原則として、70㎡から100㎡に1箇所程度とするが、現場状況に応じ監督員と協議する。また、設置位置は、原則として水上とし、歩行に支障のない箇所とする。

8. たて型ドレン



9. 横型ドレン



2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.3

脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降）

適用範囲

本項は、既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を全面修繕する工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様とする。ただし、既存防水層の劣化が著しく、当該工法に支障がある場合には既存防水層を撤去のうえ、2.5.2（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕1回目））を適用する。

下地調査 詳細は「保全工事共通仕様書」⇒54ページ

・既存塗膜の確認試験

各棟3箇所以上の付着試験を行い、付着強度が絶縁部は $0.1\text{N}/\text{mm}^2$ 、密着部は $0.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以上であることを確認する。

・既存塗膜と改修用塗膜防水材プライマーの付着試験等

イ 既存塗膜と改修用塗膜防水材プライマーの付着試験は、JIS K 5600-5-6（塗料の一般試験方法 — 第5部：塗膜の機械的性質 — 第6節：付着性（クロスカット法））によるクロスカット法により、各棟3箇所以上行い、評価分類が0であることを確認する。

ロ プライマーは、既存塗膜との付着、防水性能及び剥落に支障が無いことを製造所の試験データ等で確認する。

下地処理

- (1) 既存防水層部のひび割れは、1.0mm未満で周辺部が十分付着している場合、ポリウレタン系シーリング材等を充填し平滑に仕上げる。
- (2) 既存塗膜の膨れ、浮き、はがれは、カッター等で周辺の脆弱部も含め切除し、下地を十分に乾燥させ、段差にメンテモルタル又は塗膜防水材等を充填し平滑に仕上げる。
- (3) ほこり、油脂等を除去清掃後、十分に乾燥させる。また、既存防水層部の表面に起きたチョーキングは、ブラシ清掃し除去する。
- (4) 既存シーリング材が劣化している場合は、すべて除去し、新たにシーリング処理を行う。
- (5) 既存のルーフトレンは上皿、ストレーナーを清掃し、再設置する。再利用不可の場合は撤去し、改修用ドレンを設置する。
- (6) 既存脱気装置は清掃し、再設置する。再利用不可の場合は撤去し、新設する。

材料（ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様）

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、2.5.2（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタン系全面修繕1回目））の材料口及びニからチによる。また、プライマーは製造所の仕様とし、既存塗膜防水材及び改修用塗膜防水材に対して付着性の良い製品とする。

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.3

脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕 2回目以降）

I 工程

2.5.3 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1、2	0.3kg	オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアR	0.4kg	オルタックサンキュア 50・500	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	—	メッシュUB	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1、2	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1、2	1.2kg	オルタックエース	1.4kg	オルタックサンキュアR	1.4kg	オルタックサンキュア 50・500	1.7kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注) 1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

(注) 3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.4 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.3kg	立上り用 オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	—	メッシュUB	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.9kg	立上り用 オルタックエース	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.8kg	立上り用 オルタックエース	1.0kg	オルタックサンキュアT	1.0kg	オルタックサンキュアT	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

(注) 1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。

(注) 3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

保全工事共通仕様書 2.5.4

脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系部分修繕）

適用範囲

本項は、既存歩行用ウレタンゴム系塗膜防水工法を部分修繕する工事に適用する。

下地処理

- (1)下地処理は、2.5.3（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降））による。
- (2)既存防水層の劣化が著しく、広範囲に及ぶ場合には当該部分を撤去し、2.5.2（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタン系全面修繕1回目））を適用する。なお、当該部分と既存絶縁シートの継目部分はテープ処理を行い、継目部分の通気に支障がないように施工する。
- (3)脱気装置の有無は特記による。

材料

材料は、2.5.3（脱気絶縁複合防水（歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降））による。

工程

2.5.3 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1、2	0.3kg	オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアR	0.4kg	オルタックサンキュア 50・500	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	—	メッシュUB	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1、2	1.5kg	オルタックエース	1.8kg	オルタックサンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	1.8kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1、2	1.2kg	オルタックエース	1.4kg	オルタックサンキュアR	1.4kg	オルタックサンキュア 50・500	1.7kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上

- ※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。
 (注) 1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
 (注) 2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。
 (注) 3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.4 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇・架台天端及び立上り部等）

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエース		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上	OTプライマーA	0.2kg以上
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.3kg	立上り用 オルタックエース	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg	オルタックサンキュアT	0.4kg
3	補強布	1.1m	メッシュUB	—	メッシュUB	—	メッシュUB	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.9kg	立上り用 オルタックエース	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg	オルタックサンキュアT	1.2kg
5	ウレタンゴム系塗膜防水材 (立上り用) (注)1、2	0.8kg	立上り用 オルタックエース	1.0kg	オルタックサンキュアT	1.0kg	オルタックサンキュアT	1.0kg
6	層間プライマー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg以上
7	無機質系防水保護塗料 (注)3	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上	SPミネラコート	1.0kg以上

- ※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。
 (注) 1. 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
 (注) 2. ウレタンゴム系塗膜防水材は工程を増やすことができる。
 (注) 3. 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

対応製品紹介

プライマー（コンクリート、モルタル下地用）

OTプライマーA



コンクリート、モルタル下地用1液型ウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー（既存ウレタン防水用）

速硬化OTプライマーMブルー

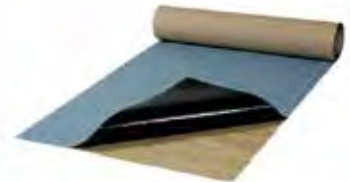


塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用プライマー。

8kg/缶

通気緩衝シート

オルタックシートWS

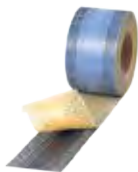


裏面はゴムアスによるストライプ状粘着層。表面はウレタン防水と接着性に優れたフィルム層を配した通気緩衝シート。

1m×10m 1.3mm厚（粘着層を含まない）
※受注生産品

通気緩衝シート用 ジョイントテープ

オルタックテープW フィルムタイプ



オルタックシートWSに使用するフィルムタイプの粘着層付ジョイントテープ。

97mm×50m巻 厚さ：0.14mm
※受注生産品

補強布

メッシュUB/メッシュソフトUB



密着工法用補強材。メッシュUBはガラス繊維を用いた強靱な補強布。メッシュソフトUBは柔軟性のあるポリエステルを用いた補強布。

メッシュUB 1,040mm×100m巻
メッシュソフトUB ※ 1,020mm×50m巻
※監督員の承諾が必要

ウレタンゴム系塗膜防水材

オルタックエース



鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立した屋上用ウレタン防水材。

32kgセット（主剤：16kg・硬化剤：16kg）
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）

立上り用オルタックエース



鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立した屋上立上り用ウレタン防水材。

24kgセット（主剤：8kg・硬化剤：16kg）
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材（速硬化型）

オルタックサンキュアR



新触媒により可使用時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。

32kgセット（主剤：16kg・硬化剤：16kg）
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材（速硬化型 立上り用）

オルタックサンキュアT



新触媒により可使用時間を延ばした立上り用速硬化ウレタン防水材。

24kgセット（主剤：8kg・硬化剤：16kg）
JIS A 6021

2章_5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

対応製品紹介

ウレタンゴム系塗膜防水材（速硬化型機械圧送用）

オルタックサンキュア500・50



オルタックサプライシステム（OSS）用の新触媒により可使用時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。

500：450kgセット（主剤：172kg・硬化剤278kg）
50：31kgセット（主剤：12kg・硬化剤19kg）
JIS A 6021

無機質系防水保護塗料

SPミネラコート



歩行仕上げ用の珪砂入り水性保護塗料。

18kg/缶

脱気筒

ステンレスベーパー/G



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。70～100㎡に1カ所の割合で設置（現場状況に応じ監督員と協議）。Gタイプは逆流防止弁付。

300mm×300mm 高さ：205mm
1個/箱

速乾性1液ウレタン系シーリング材（製造所推奨品）

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液型ウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

2章_6節 脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）

保全工事共通仕様書 2.6.1

一般事項

適用範囲

本節は、非解放の建物の屋上で防水層保護コンクリートを施した防水の修繕に適用する。

防水工法種別

(1)非歩行用改質アスファルトルーフィングシート防水工法

イ 通気絶縁用シートを用いる脱気絶縁部は、溶着型（トーチ工法）とする。

ロ 脱気絶縁部を除く範囲は密着工法とし、溶着型（トーチ工法）、併用型（複合法）、自己接着型（自着工法）のいずれかとし、種別は特記による。

(2)非歩行用加硫ゴム系ルーフィングシート通気接着工法

通気絶縁用シートを用いる通気緩衝部及びその他の部位は、接着工法とし、種別は特記による。

(3)架台等の一部を塗膜防水工法による場合は特記によるものとし、その仕様等は、8節（屋上架台・庇等塗膜防水工事）による。

下地処理

保護コンクリート等の下地補修は、2.5.2（脱気絶縁複合防水工法（歩行用ウレタン系全面修繕1回目）下地処理）イからへによるほか、次による。

なお、PC及びH-PC工法の屋根に施工する場合の下地処理は、次のハを標準とし、断熱押え部の処理は特記による。

イ ルーフドレンには、周囲を補修の後、改修用ドレンを取り付ける。

ロ 既存の伸縮目地（平場及び立上り共）の目地キャップは撤去する。押えコンクリート面から浮き上がった目地材等は削り、また、雑草や著しい欠損部は除去して、撤去跡を周囲と平滑となるようゴムアスファルト系シール材等を用いて修正する。

ハ PC板面の下地処理

- ① PC板面の処理に先立ち、風化、欠損、ひび割れ、撤去対象物（排水部分の既存線防水層の処理も含む）及び役物寸法（マンホール、立上り寸法）等の状況調査を行い、防水及び断熱との納まりの検討を行った上、ルーフィングの割付図を作成する。
- ② PC板面はデッキブラシ等を用いて、泥分、ゴミ、風化物、水分等を除去清掃し、表面を十分乾燥させる。
- ③ PC板のひび割れ部には、ゴムアスファルト系シール材等を充填し、防水処理を行う。

2章_6節 脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）

保全工事共通仕様書 2.6.2

脱気絶縁複合防水（非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目）

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 速乾性プライマーは、2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の材料イによる。
- ロ 常温工法用アスファルトコンパウンドは、製造所の仕様による。
- ハ 改質アスファルトルーフィングは、2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の材料ニに規定する「砂付ルーフィング」による。
- ニ 通気絶縁用シートは、上に施工するアスファルトルーフィングとなじみ良く一体化し、下地挙動に対する追従効果や通気機能を有し、寸法安定性に問題がない「部分粘着型通気絶縁用シート」とする。
- ホ 既存塗膜等で下地との接着が困難な場合は、接着用層間プライマーを塗布する。層間プライマーの品質と使用量は、製造所の仕様により、施工範囲は監督員と協議する。
- ヘ 目地補強用シートは、伸縮目地の挙動による変形・破断等から防水層を保護するとともに、あなあき型通気絶縁用シート工法で施工中に伸縮目地内にアスファルトが流れ落ちることを防止するために用いる補強張り用のシートで、自己接着型の改質アスファルトルーフィングとする。品質は、JIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）非露出・複層用の品質に適合し、幅150mm以上のものとする。
- ト 増張り用シートは、改質アスファルトルーフィングとなじみの良いシート状又はテープ状のもので、製造所の仕様による。架台等に用いる塗膜防水材は、2章8節（屋上架台・庇等防水工事）による。
- チ ゴムアスファルト系シール材の品質は、2.3.3表による。
- リ 仕上塗料は、防水層表面保護仕上材で、はけ又はローラーで塗布するのに支障がなく、防水層と十分接着し、防水層に悪影響を与えず、良好な耐候性を有したものとする。また、仕上色はシルバーを標準とし、カラー仕上又は遮熱塗料等を用いる場合は特記による。
- ヌ 脱気装置は、製造所の仕様とし、腐食しにくい材質の強固なもので、ステンレス製を標準とする。形状は、排気口の径が40mm以上、高さは180mm以上とする。
- ル 改修用ドレンは、製造所の仕様とし、周囲になじみの良い柔軟な金属製で、既存の縦型又は横型ドレンに容易に装着が出来るものとする。また、排水口の直径は、70mmと100mmを標準とし、腐食のない金属製のストレーナーと組合わせたものとする。
- ロ 防水押え金物と固定用ナイロンプラグ類の品質、形状及び寸法は、2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の材料チ及びリによるほか、特記による。

工程

2.6.1 表 脱気絶縁部（平場）の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	通気絶縁用シート（注）1	—	ポリマリットPS	—
3	改質アスファルト（砂付）ルーフィング	—	ポリマリットフェース	—
4	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

（注）1. 工程2は脱気装置の取付けを含む。
（注）2. 目地補強シートを用いる場合は、特記による。

2.6.2 表 密着部（平場及び立上り等）の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	速乾性アスファルトプライマー	0.2kg	アスファルトプライマーSS	0.2kg
2	目地補強用シート	—	ポリマリットGL（カット200）	—
3	常温工法用アスファルトコンパウンド（注）	1.3kg	—	—
4	改質アスファルト（砂付）ルーフィング	—	ポリマリットフェース	—
5	仕上塗料	製造所の仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

（注）トーチ工法又は自着工法による場合は、工程3は省略する。

2章_6節 脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）

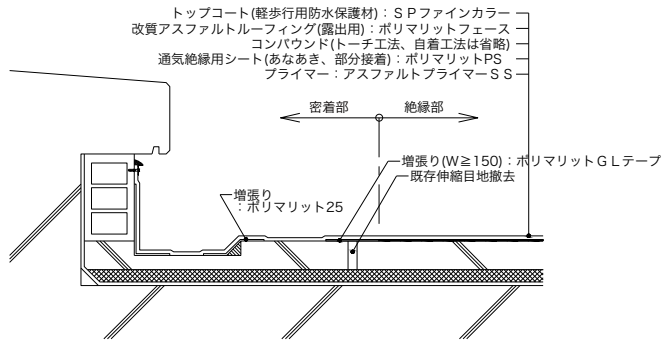
保全工事共通仕様書 2.6.2

脱気絶縁複合防水（非歩行用改質アスファルト全面修繕1回目）

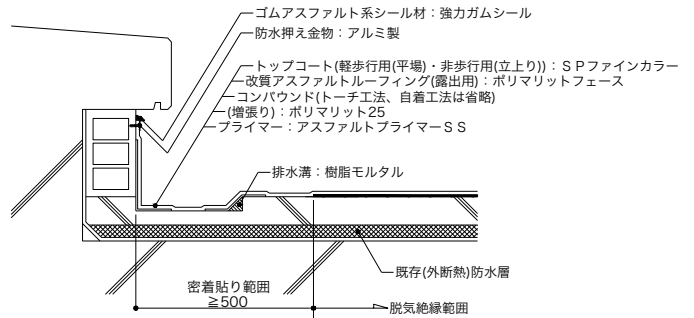
標準納まり図 「品質判定基準」⇒162～163ページ
標準割付け図

①平場

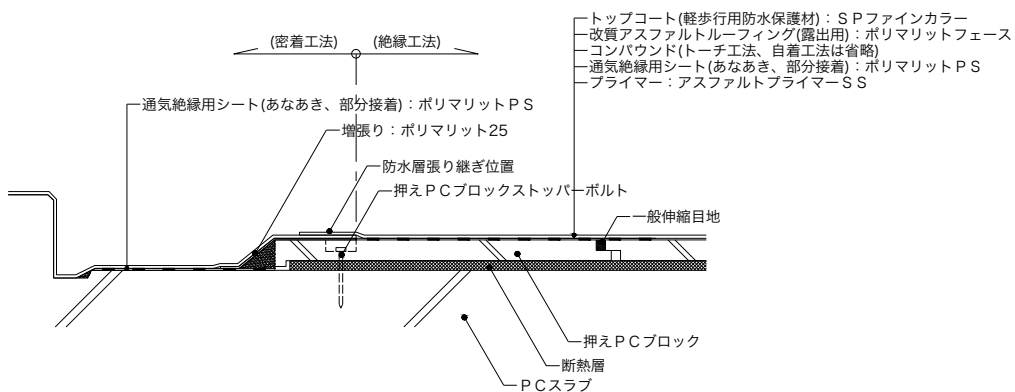
立ち上り部及びパラペット際外周部平場（密着張り範囲）



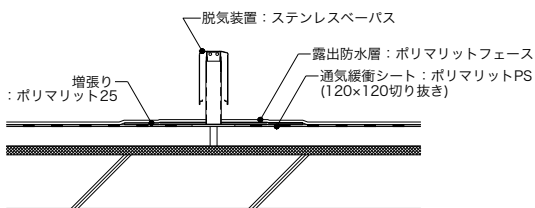
②立ち上り部及びパラペット際外周部平場（密着張り範囲）



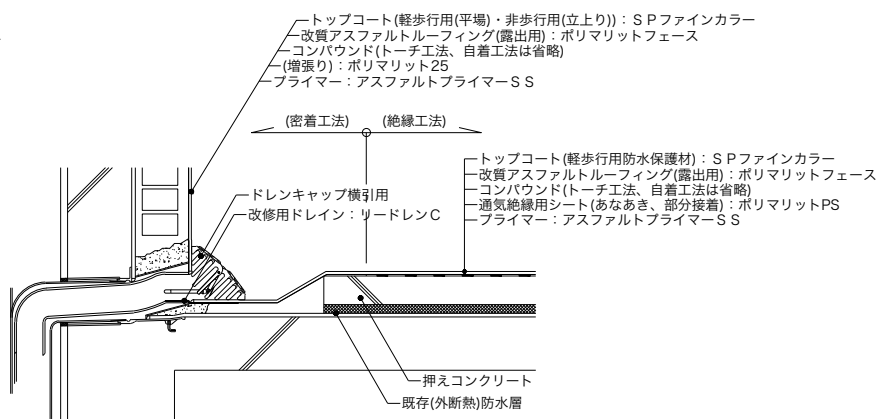
③(PC造・排気溝側) 部分粘着型通気絶縁用シート工法



脱気筒廻り



横引きドレン



2章_6節 脱気絶縁複合防水工事（非歩行用）

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理。

16kg/缶

部分粘着型通気絶縁用シート（水抜きシート）

ポリマリットPS



裏面に粘着層をストライプ状に配した絶縁通気用改質アスファルトシート。

1m×16m 1.5mm厚（粘着層を含まない）
JIS A 6013

増張り用シート（トーチ工法）

ポリマリット25



2層工法に用いる下貼り及び立上り部用シート。

1m×8m 2.5mm厚
JIS A 6013

増張り用シート（自着工法）／目地補強用テープ

ポリマリットGL／ポリマリットGL（カット200）

下張り用改質アスファルトシートで、裏面全面にゴムアス層を設けた密着工法用シート。
・カット200：片面粘着タイプのテープ。
コーナー・入隅部などの増張り、
ALC板短辺部の補強に使用。1m×8m／カット200：200mm×8m 2.0mm厚
JIS A 6013

改質アスファルトシート（トーチ工法）

ポリマリットフェース



表面に砕石砂を圧着した露出防水用キャップシート。

1m×8m 4.0mm厚
JIS A 6013

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする日射反射率70%以上の水性高反射保護塗料。

18kg/缶

ゴムアスファルト系シーラ材

強力ガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、端末部に使用するゴムアスファルト系シーラ材。

330ccカートリッジ：20本/箱
20kg/缶 9kg/缶

変性シリコン系シーラ材（製造所推奨品）

GCライン（カート／ジャンボ）



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変性シリコン系シーラ材。

330ccカート、850ccジャンボカート 各10本/箱
※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

脱気筒

ステンレースベアパス/G

防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。30～70㎡に1カ所の割合で設置（現場状況に応じ監督員と協議）。
Gタイプは逆流防止弁付。300mm×300mm 高さ:205mm
1個/箱

2章_7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.1

一般事項

適用範囲

本節は、バルコニー床及び共用廊下排水溝（以下「バルコニー等床」という）の防水修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系又はポリマーセメント系（無機質系）のいずれかの塗膜防水工法とする。

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

適用範囲

本項は、既存仕上げが防水モルタル塗りまたはコンクリート素地のバルコニー等床の防水修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系の塗膜防水工法とする。

下地処理

バルコニー等床の浮き、ひび割れ及び欠け並びにサッシ下端シーリング材取替え等の下地補修は、3.2.3（エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法）及び3.2.5（モルタル欠損部修繕工事）によるほか、次による。

イ バルコニー等床（平場部分）のひび割れが1.0mm以上の補修は3.2.2（Uカット可とう性エポキシ樹脂充填工法）による。

ロ バルコニー等床の排水に著しく影響する不陸等は、メンテモルタル等を用いて補修する。

ハ サッシ下端のシーリング材が劣化し雨漏れのおそれがあるものは監督員と協議する。ただし、サッシ下枠に水抜き穴等がある場合はシーリング施工をしない。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

イ 材料は、JIS A 6021（建築用塗膜防水材）によるウレタンゴム系高伸長形に適合する製品とし、プライマー、塗膜防水材及び仕上塗料は厚生労働省の「室内空気汚染に係るガイドライン」に室内濃度指針値が定められた化学物質を使用しないもの（以下「環境配慮型」という。）とする。

ロ プライマーは、製造所の仕様とし、コンクリート及び防水材に対して付着性の良い製品とする。

ハ 仕上塗料及び仕上塗料に混入する骨材は、製造所の仕様とする。

ニ シーリング材は、JIS A 5758（建築用シーリング材）によるものとし、特記なき限り、2成分形ポリウレタン系シーリング材とする。ただし、シーリング材の表面に塗装等を施さない場合は、2成分形変成シリコン系シーリング材又は2成分形ポリサルファイド系シーリング材とする。

ホ 既存排水ドレンの塗料種別は特記による。特記なき限り、ノンタールエポキシ樹脂塗料とし、製造所の仕様とする。

ヘ 本施工に先立ち、プライマー、塗膜防水材及び仕上塗料の使用量及び塗り厚を試験施工にて確認する。

2章_7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

工法

工法は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

- イ 出隅部は、クロス等補強材を用いて施工する。
- ロ 入口隅部及びドレン廻りはよく清掃し、シーリング材で施工し、ひび割れ等がある場合は、必要に応じてクロス等補強材を併用する。
- ハ 配管類の立上り部は、シーリング材及び補強材等を併用し、巾木仕上げ高さまで施工する。
- ニ 共用廊下排水溝部はビニル床シートの押え金物はずした上で、押え金物の下端まで防水を塗布する。
- ホ PC板等ジョイント部は、クロス等補強材を併用し施工する。
- ヘ 塗り厚は、2.0mmを標準とする。
- ト 仕上塗料に混入した骨材は、偏りが無いよう均等に施工する。
- チ ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程は、2.7.1表による。各工程の養生時間は製造所の仕様による。

工程

2.7.1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.15～0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタックサンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア50・500	2.6kg
3	仕上塗料 (注)2、3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注) 1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注) 3. 工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章_7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

標準納まり図（参考図）

図1 全体図

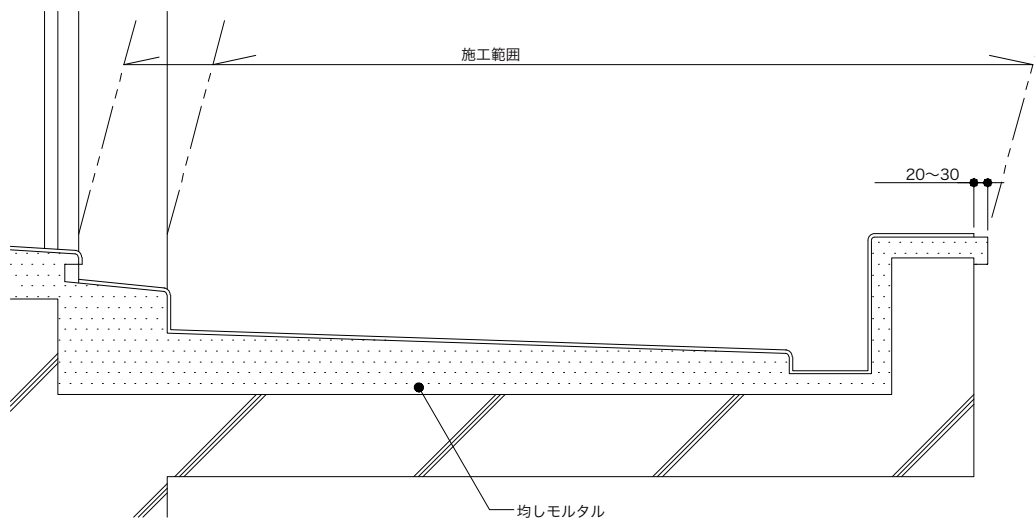


図2 壁面立上り①

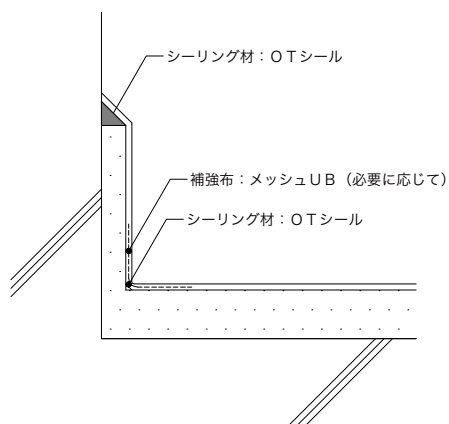


図2 壁面立上り②

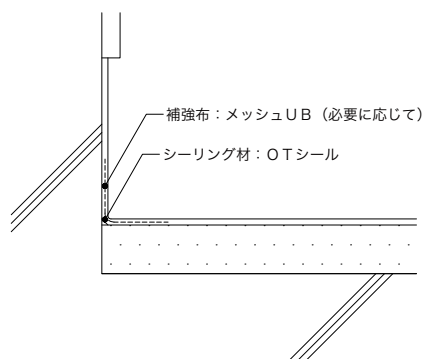


図2 壁面立上り③

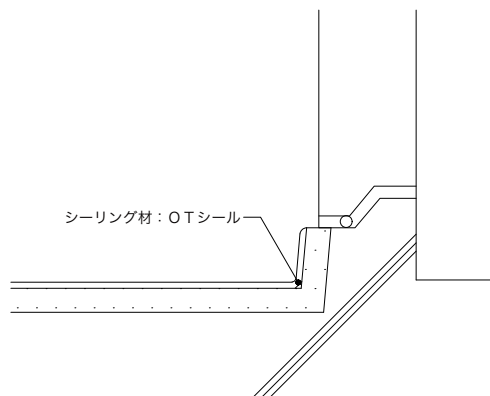
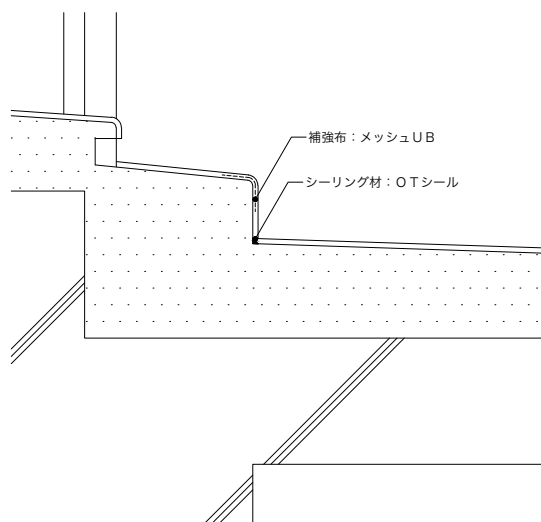


図3 出入口部敷居



2章_7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目）

標準納まり図（参考図）

図4 サッシ下枠

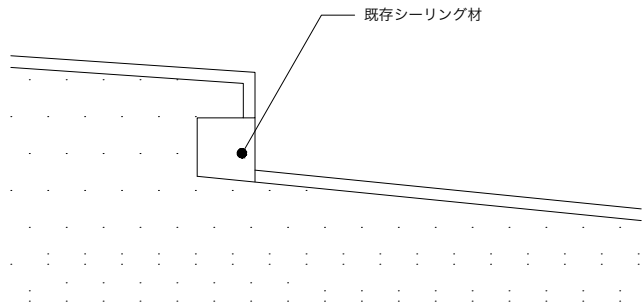


図6 ドレン廻り

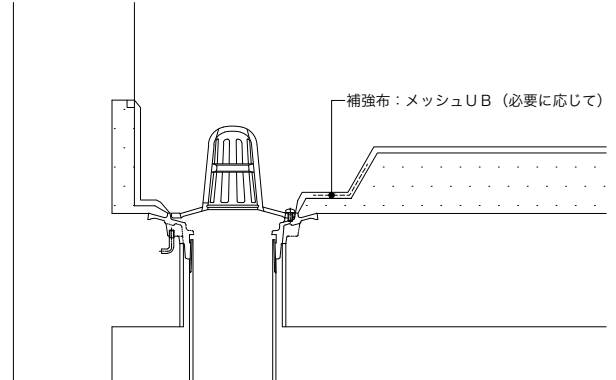


図5 立上り部天端①

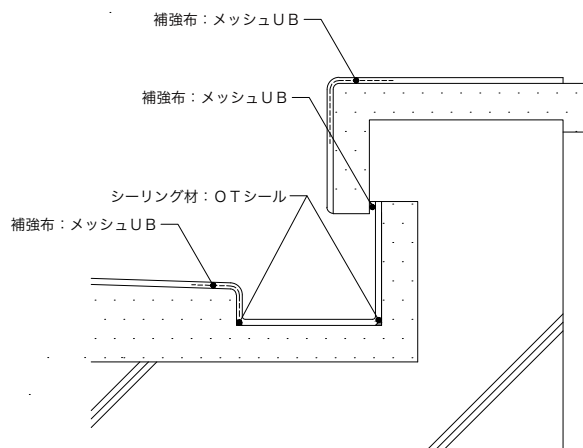


図7 管貫通部等

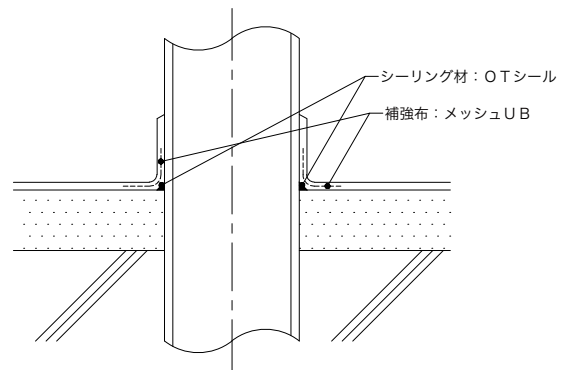


図5 立上り部天端②

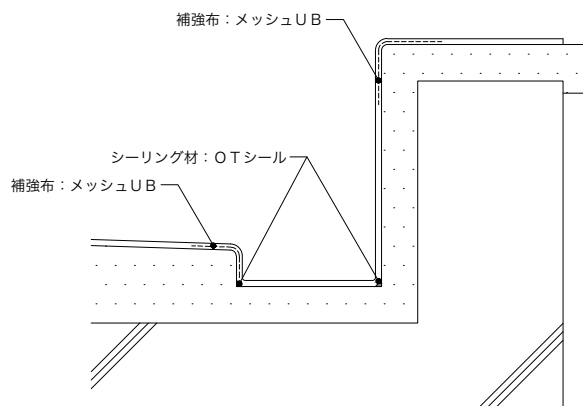
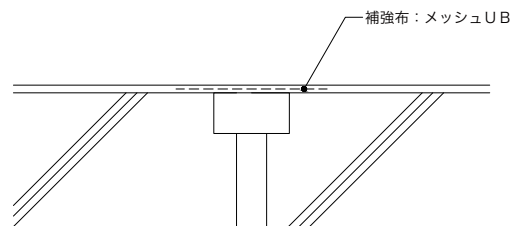


図8 PC板ジョイント部



2章_7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.3

ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕2回目以降）

適用範囲

本項は、既存仕上げに塗膜防水が施されたバルコニー等床の修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系の塗膜防水工法とする。

下地調査

バルコニー等床の塗り替えに先立ち、既存塗膜及び下地の状況を確認する。

・ 既存塗膜の付着試験

格棟3箇所以上の付着試験を行い、付着強度が0.5N/㎡以上であることを確認する。

・ 既存塗膜と改修用塗膜防水材プライマーの付着試験

JIS K 5600-5-6（塗料の一般試験方法―第5部：塗膜の機械的性質―第6節：付着性（クロスカット法）によるクロスカット法）により、各棟3箇所以上の付着試験を行い、評価分類が0であることを確認する。

下地処理

詳細は「保全工事共通仕様書」⇒67ページ

材料

材料は、2.7.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目））による。ただし、プライマーは製造所の仕様とし、既存塗膜防水材及び改修用塗膜防水材に対して付着性の良い製品とする。

工法

工法は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

イ 塗り厚は、1.5mmを標準とする。

ロ 修繕済みの出隅部、入隅部又はPC板等ジョイント部等において、クロス等補強又はシーリングの劣化が著しい場合は、2.7.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目））の5イからハ及びホにより、処理する。

ハ 仕上塗料に混入した骨材は、偏りが無いよう均等に施工する。

ニ ウレタンゴム系塗膜防水工法2回目以降の工程は、2.7.2表による。各工程の養生時間は製造所の仕様による。

工程

2.7.2 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法修繕2回目以降の工程

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.1～ 0.2kg	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg	速硬化 OTプライマーMブルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1	1.5kg	オルタックエースVR	2.1kg	オルタック サンキュアR	1.8kg	オルタックサンキュア 50・500	2.0kg
3	仕上塗料 (注)2、3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注) 1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注) 3. 工程3の仕上塗料は、性状により工程数を増やすことができる。

2章_7節 バルコニー等床防水工事

保全工事共通仕様書 2.7.4

ウレタンゴム系塗膜防水工法（部分修繕）

適用範囲

本項は、バルコニー等床防水の塗り残し部の修繕工事に適用する。

下地処理

下地処理は2.7.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目））による。

材料

既存防水層の材料がウレタンゴム系であることを確認のうえ、原則として、同一系材料を使用するものとし、品質等は2.7.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目））による。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.15～ 0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタック サンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 50・500	2.6kg
3	仕上塗料 (注)2、3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注) 1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあつては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注) 3. 工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章_7節 バルコニー等床防水工事

対応製品紹介

プライマー（コンクリート、モルタル下地用）

OTプライマー-A



コンクリート、モルタル下地用1液型ウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー（既存ウレタン防水用）

速硬化OTプライマー-Mブルー



塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用プライマー。

8kg/缶

ウレタンゴム系塗膜防水材料

オルタックエースVR



鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立したベランダ、応用ウレタン防水材。

24kgセット(主剤:8kg・硬化剤16kg)

ウレタンゴム系塗膜防水材料（立上り用）

立上り用オルタックエース



鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立した屋上立上り用ウレタン防水材。

24kgセット(主剤:8kg・硬化剤:16kg)
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材料（速硬化型）

オルタックサンキュアR/T

新触媒により可使用時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。
平面部にはR、立上り部にはTを使用。R：32kgセット(主剤:16kg・硬化剤:16kg)
T：24kgセット(主剤:8kg・硬化剤:16kg)
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材料（速硬化型機械圧送用）

オルタックサンキュア500・50



オルタックサプライシステム（OSS）用の新触媒により可使用時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。

500：450kgセット(主剤:172kg・硬化剤278kg)
50：31kgセット(主剤:12kg・硬化剤19kg)
JIS A 6021

仕上げ塗料

OTコートA/OTコートAつやあり



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。半つやタイプとつやありタイプの2種。

14kg/セット(主剤:6kg・硬化剤8kg)
※OTコートAタッチアップ/つやあり タッチアップ70gセット(標準色4色のみ) もあり。

チップ材

Uチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。ウレタンエラストマーを細かなチップ状に粉碎したものを。

300g/箱
(保護塗料14kgセットに対して1箱を添加)

チップ材

Mチップ



保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。アルミノシリケート系無機質微小中空球体材。Uチップより粗面な仕上げとなる。

420g/箱
(保護塗料14kgセットに対して1箱添加)

2章_7節 バルコニー等床防水工事

対応製品紹介

速乾性1液ウレタン系シーリング材（製造所推奨品）

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液型ウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

補強布

メッシュUB／メッシュソフトUB



密着工法用補強材。メッシュUBはガラス繊維を用いた強靱な補強布。メッシュUBソフトは柔軟性のあるポリエステルを用いた補強布。

メッシュUB 1,040mm×100m巻
メッシュUBソフト ※ 1,020mm×50m巻
※監督員の承諾が必要

2章_8節 屋上架台・庇等防水工事

保全工事共通仕様書 2.8.1

一般事項

適用範囲

本節は、屋上の架台天端、庇等の修繕工事に適用する。

下地処理

- (1)下地コンクリート又はモルタル面の付着物はスクレーパー、ワイヤブラシ等により、ケレンする。
- (2)浮き、ひび割れ及び欠け等の下地補修は、3.2.2.（Uカット可とう性エポキシ樹脂充填工法）、3.2.3（エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法）及び3.2.5（モルタル欠損部修繕工事）による。
- (3)下地面の不陸、排水障害は、メンテモルタル等を用いて勾配を設ける等の排水処理を行う。なお、不陸が著しい場合の処置は、監督員と協議する。
- (4)上記以外の下地調査、下地処理及び防水の施工範囲等は特記による。

保全工事共通仕様書 2.8.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法

材料

材料は、2.7.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目））による。
なお、仕上塗料への骨材混入の適用は特記によるほか、監督員の指示による。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	プライマー	0.15～ 0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材 (注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタック サンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 50・500	2.6kg
3	仕上塗料 (注)2、3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注) 1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注) 3. 工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章_8節 屋上架台・庇等防水工事

対応製品紹介

プライマー（コンクリート、モルタル下地用）

OTプライマー-A



コンクリート、モルタル下地用1液型ウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー（既存ウレタン防水用）

速硬化OTプライマー-Mブルー



塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用プライマー。

8kg/缶

ウレタンゴム系塗膜防水材

オルタックエースVR



鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立したベランダ、庇用ウレタン防水材。

24kgセット(主剤:8kg・硬化剤16kg)

ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）

立上り用オルタックエース



鉛非含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立した屋上立上り用ウレタン防水材。

24kgセット(主剤:8kg・硬化剤:16kg)
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材（速硬化型）

オルタックサンキュアR/T



新触媒により可使用時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。
平面部にはR、立上り部にはTを使用。

R：32kgセット(主剤:16kg・硬化剤:16kg)
T：24kgセット(主剤:8kg・硬化剤:16kg)
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材（速硬化型機械圧送用）

オルタックサンキュア500・50



オルタックサプライシステム（OSS）用の新触媒により可使用時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。

500：450kgセット(主剤:172kg・硬化剤278kg)
50：31kgセット(主剤:12kg・硬化剤19kg)
JIS A 6021

仕上げ塗料

OTコートA/OTコートAつやあり



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。半つやタイプとつやありタイプの2種。

14kg/セット(主剤:6kg・硬化剤8kg)
※OTコートAタッチアップ/つやあり タッチアップ
700gセット(標準色4色のみ) もあり。

速乾性1液ウレタン系シーリング材（製造所推奨品）

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液型のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

補強布

メッシュUB/メッシュソフトUB



密着工法用補強材。メッシュUBはガラス繊維を用いた強靱な補強布。メッシュUBソフトは柔軟性のあるポリエステルを用いた補強布。

メッシュUB 1,040mm×100m巻
メッシュUBソフト ※ 1,020mm×50m巻
※監督員の承諾が必要

2章_9節 トレンチピット等防水工事

保全工事共通仕様書 2.9.1

一般事項

適用範囲

本節は、トレンチピット等の修繕工事に適用する。

下地処理

トレンチピット等の床の浮き、ひび割れ等の下地処理は、3.2.3（エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法）及び3.2.5（モルタル欠損部修繕工事）によるほか、次による。

- イ 防水下地の汚れ及び油類等の付着物は、ブラシ、研磨紙及び水洗い等により除去する。
- ロ 防水下地床面に水たまり（結露水等）がある場合は、ウエス類で拭き取る。
- ハ 施工範囲は、床面及び立上り面（床面より300mm程度）とする。
- ニ 上記以外の下地調査及び下地処理は特記による。

保全工事共通仕様書 2.9.2

ウレタンゴム系塗膜防水工法

材料・工法

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、2.7.2（ウレタンゴム系塗膜防水工法（全面修繕1回目））の材料イからニ及びへによる。

工程

2.7.1 表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量/㎡	オルタックエースVR		オルタックサンキュア (速硬化ウレタン塗膜防水)		オルタックサンキュア50・500 (自動混合・圧送システム用速硬化ウレタン塗膜防水)	
			対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	プライマー	0.15～ 0.25kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg	OTプライマーA	0.2kg
2	ウレタンゴム系 塗膜防水材 (注)1	2.0kg	オルタックエースVR	2.8kg	オルタック サンキュアR	2.4kg	オルタックサンキュア 50・500	2.6kg
3	仕上塗料 (注)2、3	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg	OTコートA	0.2kg

(注) 1. 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

(注) 2. 工程3の平場部における骨材使用量は製造所の仕様による。

(注) 3. 工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2章_9節 トレンチピット等防水工事

対応製品紹介

プライマー（コンクリート、モルタル下地用）

OTプライマー-A



コンクリート、モルタル下地用 1液型ウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー（既存ウレタン防水用）

速硬化OTプライマー-Mブルー



塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用プライマー。

8kg/缶

ウレタンゴム系塗膜防水材料

オルタックエースVR



鉛含有による高耐久化と特化則・有機則非該当の環境性能を両立したベランダ、応用ウレタン防水材料。

24kgセット(主剤:8kg・硬化剤16kg)

ウレタンゴム系塗膜防水材料（速硬化型）

オルタックサンキュアR



新触媒により可使時間を延ばした速硬化ウレタン防水材料。

32kgセット(主剤:16kg・硬化剤:16kg)
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材料（速硬化型機械圧送用）

オルタックサンキュア500・50



オルタックサプライシステム（OSS）用の新触媒により可使時間を延ばした速硬化ウレタン防水材料。

500：450kgセット(主剤:172kg・硬化剤278kg)
50：31kgセット(主剤:12kg・硬化剤19kg)
JIS A 6021

仕上げ塗料

OTコートA



2液反応型アクリルウレタン系保護塗料。新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。

14kg/セット(主剤:6kg・硬化剤8kg)
※OTコートAタッチアップ700gセット(標準色4色のみ)

仕上げ塗料

OTコートAつやあり



2液反応型アクリルウレタン系つやあり保護塗料。新配合で耐候性、耐久性が向上。有機則に該当する溶剤を一切使用しない新環境対応型。

14kg/セット(主剤:6kg・硬化剤8kg)
※OTコートAつやあり タッチアップ700gセット(標準色4色のみ)

チップ材

Uチップ/Mチップ

保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。
Uチップ：ウレタンエラストマーを細かなチップ状に粉碎したもの。
Mチップ：アルミノシリケート系無機質微小中空球体材。Uチップより粗面な仕上げとなる。Uチップ：300g/箱(保護塗料14kgセットに対して1箱を添加)
Mチップ：420g/箱(保護塗料14kgセットに対して1箱を添加)

速乾性1液ウレタン系シーリング材（製造所推奨品）

OTシール



オルタックシート端末部に施工する、速乾性1液型のウレタン系シーリング材。

320ccカートリッジ
20本/箱

2章 10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.1

一般事項

適用範囲

本節は、階段室床の防水工事に適用する。

下地処理

階段室床の欠け等の下地補修は、3.2.3（エポキシ樹脂注入工法及び注入口付アンカーピン併用エポキシ樹脂注入工法）及び3.2.5（モルタル欠損部修繕工事）によるほか、次による。

イ 階段室床の排水に著しく影響する不陸等は、メンテモルタル等を用いて排水勾配を設ける等の排水処理を行う。

ロ 階段既存ノンスリップの固定状況を確認し、浮き等の不良がある場合は、監督員の確認を受けた後、撤去する。撤去した部分は、速硬軽量モルタル等により補修する。なお、速硬軽量モルタルの品質等は、「機材及び工法の品質判定基準」による。

ハ 既存ノンスリップに錆がある場合は、錆落しを行う。

ニ 既存ノンスリップ上面及び階段踏面の不陸は、シーリング材又は製造所の仕様による専用下地調整材にて処理する。

ホ 玄関扉下部の取合い部高さが5mm以下の部分は、既存仕上げモルタルに溝を設け、くつずりの高さを確保する。

ヘ 貫通配管の根元は、塗料、錆をケレン等で落し、シーリング処理する。

ト 排水溝の階段側入隅部、ドレン廻りは、シーリング処理する。

チ 幅0.5mm以上のひび割れは、シーリング材又は製造所の仕様による専用下地調整材で処理する。

保全工事共通仕様書 2.10.2

超速硬化ウレタン吹付工法（全面修繕 1 回目）

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による。

イ プライマーは一液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー又はエポキシ系プライマーとし、製造所の仕様による。

ロ 超速硬化ウレタン吹付け材は、二液反応型ウレタン吹付け材とする。

ハ 仕上塗料は、JIS K 5600-1-1（塗料一般試験方法-第1部：通則-第1節：試験一般（条件及び方法））による塗料とし、製造所の仕様による。

ニ 下地補修用シーリング材は、JIS A 5758（建築用シーリング材）によるものとし、特記なき限り、2成分形ポリウレタン系シーリング材とする。

工程

2.10.1 表 超速硬化ウレタン吹付工法の工程

工程	材料	使用量/㎡	対応製品	使用量/㎡
1	1液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー 又は エポキシ系プライマー	0.15kg以上	OTプライマーQQ	0.2kg
2	超速硬化ウレタン吹付け材	1.5kg	オルタックスプレーFF	1.5kg
3	仕上塗料	0.15kg	OTコートQQ	0.2kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

2章_10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.3

超速硬化ウレタン吹付工法（全面修繕2回目以降／仕上塗料替え）

適用範囲

本項は、階段室床に超速硬化ウレタン吹付工法による防水が施された階段の全面修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、仕上塗料塗替え工法とする。なお、既存防水層の劣化が著しく、当該工法が適さない部分は撤去し、2.10.4（超速硬化ウレタン吹付工法（部分修繕））を適用する。

下地調査

・既存塗膜の付着試験

各棟3箇所以上の付着試験を行い、付着強度が0.5N/mm²以上であることを確認する。

・既存塗膜と改修用ウレタン系プライマーの付着試験

JIS K 5600-5-6（塗料一般試験方法－第5部：塗膜の機械的性質－第6節：付着性（クロスカット法）によるクロスカット法）により、各棟3箇所以上の付着試験を行い、評価分類が0であることを確認する。

下地処理

詳細は「保全工事共通仕様書」⇒73ページ

材料

材料は2.10.2（超速硬化ウレタン吹付工法（全面修繕1回目））の1によるほか、使用するプライマーは既存防水層と付着性の良いものとする。

工程

2.10.2 表 仕上塗料塗り替え工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	1液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー 又は エポキシ系プライマー	0.1～ 0.15kg	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg
2	仕上塗料	0.15kg	OTコートQQ	0.2kg

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

2章_10節 階段室床防水工事

保全工事共通仕様書 2.10.4

超速硬化ウレタン吹付工法（部分修繕）

適用範囲

本項は、階段室床に超速硬化ウレタン吹付工法による防水が施された階段の部分修繕工事に適用する。

防水工法種別

当該修繕に使用する防水工法は、ウレタンゴム系塗膜防水手塗り工法とする。

下地処理

詳細は「保全工事共通仕様書」⇒74ページ

材料

材料は施工性が良く、乾燥性の速い製品によるほか、次による。

イ プライマーは速硬化型ウレタンゴム系プライマー（一液性湿気硬化型）等の既存塗膜防水撤去後の下地に対して付着性の良い製品とし、製造所の仕様による。

ロ 塗膜防水材は、JIS A 6021（建築用塗膜防水材）ウレタンゴム系高伸長形に適合する製品とするほか、製造所の仕様による硬化速度の優れた速硬化型のものとする。

ハ チップ材（粒径0.2mm程度）は、製造所の仕様による。

ニ 仕上塗料塗りに用いる材料はJIS K 5600-1-1（塗膜一般試験方法-第1部：通則-第1節：試験一般（条件及び方法））による塗料とし、製造所の仕様による。

工程

2.10.3 表 ウレタンゴム系塗膜防水手塗り工法の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	1液性湿気硬化型のウレタンゴム系プライマー 又は エポキシ系プライマー	0.1～ 0.15kg	速硬化OTプライマーMブルー	0.1kg
2	ウレタンゴム系塗膜防水材	1.5kg (注)	オルタックサンキュアR	1.8kg
3	チップ材(粒径0.2mm程度)散布	10g	Uチップ	10g
4	仕上塗料	0.15kg	OTコートQQ	0.2kg

(注) 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※ 各工程の養生時間は製造所の仕様による。

2章_10節 階段室床防水工事

対応製品紹介

プライマー（コンクリート、モルタル下地用）

OTプライマー-A



コンクリート、モルタル下地用 1液型ウレタン系プライマー。

16kg/缶

プライマー（既存ウレタン防水用）

速硬化OTプライマー-Mブルー



塗布した部分が識別しやすいよう青色に着色した速乾性の既存ウレタン防水用プライマー。

8kg/缶

超速硬化ウレタン吹付け材

オルタックスプレー-FF



高強度型スプレー工法用ウレタン防水材。

FF：390kgセット
(主剤:200kg・硬化剤:182kg・トナー:8kg)
FF-S：35.12kgセット
(主剤:18kg・硬化剤:16.4kg・トナー:0.72kg)
JIS A 6021

ウレタンゴム系塗膜防水材（速硬化型）

オルタックスンキュアR



新触媒により可使時間を延ばした速硬化ウレタン防水材。

32kgセット(主剤:16kg・硬化剤:16kg)
JIS A 6021

チップ材

Uチップ/Mチップ

保護塗料に混入する粗面仕上げ用チップ。
Uチップ：ウレタンエラストマーを細かなチップ状に粉碎したもの。
Mチップ：アルミノシリケート系無機質微小中空球体材。Uチップより粗面な仕上げとなる。Uチップ：300g/箱
Mチップ：420g/箱
※保護塗料14kgセットに対して1箱添加

仕上げ塗料（速硬化形）

OTコートQQ



スプレー工法用の速乾性アクリルウレタン系保護塗料。

15kgセット(主剤:6kg・硬化剤9kg)

2章_11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.1

一般事項

適用範囲

本節は、勾配屋根の改修工事に適用する。

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法（改修アスファルトシート防水）

適用範囲

本項は、既存シングル屋根の修繕に際して、劣化が激しく飛散のおそれがある場合に改質アスファルトシート防水を行う場合に適用する。

既存屋根の調査及び試験

(1) 既存下地の調査

改修工事に先立ち、既存シングルの劣化状態、下地への付着力及び断熱材と下地との付着状況について目視調査及び付着力試験を行う。

(2) 付着力の試験

イ 試験は、次の①から④の防水層別を実施し、各棟全項目につき1箇所以上屋根面で測定する。なお、測定箇所は監督員と協議する。

- ① シングル材相互の張り重ね部
- ② シングル材と下葺き防水材の張り付け部
- ③ 下葺き防水材と屋根下地の張付け部
- ④ 断熱材と下地屋根の張り付け部（既存が断熱工法の場合）

ロ 試験は、①②③については各層間、④については断熱材と下地の接着部分で付着力を測定する。

ハ 付着強度は、①、②及び③は、 $1.8\text{N}/\text{cm}^2$ 以上、④は、 $3.5\text{N}/\text{cm}^2$ 以上であることを確認する。

ニ 既存シングル等の付着強度が所定の強度を得られない場合は、監督員と協議する。

下地処理

(1) 残置する既存防水層の表面（シングル材又は下葺き防水材）は全面清掃を行い、苔、土砂等の汚れを除去し、乾燥させる。

(2) 下地の不陸及び欠損箇所は、改質アスファルトシートの増張りで補修を行う。なお、不陸が著しい場合及び既存断熱材の剥離箇所等の処置は、監督員と協議する。

(3) 軒先及びケラバ等周辺部（以下外周部という）の既存シングルと既存断熱材は、端部から300mm程度撤去し、水切り金物、桟木類も併せて撤去する。

材料

材料は、「機材及び工法の品質判定基準」によるほか、次による

イ 断熱材の適用は特記による。断熱材は、2.4.2（外断熱露出アスファルト防水工法（全面修繕1回目））の3イによる。

ロ アスファルト系下地活性剤又はポリマーセメント系下地調整材は2.3.2（アスファルト防水常温工法（非断熱部））の2ロによる。

ハ 改質アスファルトシートは、JIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）に規定する単層用とし、厚さは2.3.2表による。

ニ 下層用の自己粘着型シートはJIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）に規定する非露出複層防水用で、厚さ1.5mm以上とする。

ホ 増張り用シートは、JIS A 6013（改質アスファルトルーフィングシート）に規定する非露出複層防水用とする。

ヘ 仕上塗料は、製造所の仕様による。

ト アルミ製水切り金物及びアンカープラグ付ビスは、製造所指定の材料及び工法とする。

2章 11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法（改修アスファルトシート防水）

I 工法

工法は、「機材及び工法の品質判定基準」による。工法の種別は、既存シングルを残して改修する「かぶせ方式」又は既存シングルは撤去し、下葺き防水材を残し改修する「撤去方式」とし、適用は特記による。特記なき限り、「かぶせ方式」とするが、2(2)により①及び②で所定の強度を得られない場合は、「撤去方式」とする。なお、③もしくは④で所定の強度を得られない場合、又は既存防水層にアスベストが含有している場合は、監督員と協議することとし、適用する工法種別の選定基準は2.11.1表による。

2.11.1 表 工法種別の選定基準

種別	試験	①	②	既存断熱材なし	既存断熱材あり
		合格		③	④
かぶせ方式		合格		合格	合格
撤去方式		1項目以上の不合格があった場合		合格	合格
協議		-		不合格	不合格

II 工程

2.11.2 表 改質アスファルトシート防水（一般部）の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	アスファルト活性剤 又は ポリマーセメント系下地調整材	1.2kg (0.8kg) (注)1	リベースSL	1.2kg
2	接着剤 (注)2	—	レイコーセメント	1.2kg
	粘着材 (部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レバラー材等) (注)2	—	—	—
3	硬質ウレタンフォーム (注)2、3	—	ギルフォーム	—
4	自己粘着型シート	—	ガムクールFX	—
5	改質アスファルトシート	—	ガムクールキャップEX	—
6	仕上塗料	製造所の 仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注) 1. 工程 1 の使用量 () 内は、「撤去方式」の場合に適用する。

(注) 2. 工程 2 及び3は、断熱材を取り付ける場合に適用する。

(注) 3. 工程 3 の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2.11.3 表 改質アスファルトシート防水（外周部）の工程

工程	材料	使用量/m ²	対応製品	使用量/m ²
1	アルミ製水切金物	—	アスファルトプライマーSS	0.2kg
			フラッシングテープ	—
			シングルドリッパー(エッジ)T25～T50	—
2	接着剤 粘着材 (部分粘着型シート、粘着層付テープ状シート、粘着層付レバラー材等)	—	レイコーセメント	1.2kg
			—	—
3	硬質ウレタンフォーム (注)	—	ギルフォーム	—
4	自己粘着型シート	—	ガムクールFX	—
5	改質アスファルトシート	—	ガムクールキャップEX	—
6	仕上塗料	製造所の 仕様による	SPファインカラー	0.4～0.6kg

(注) 工程 3 の硬質ウレタンフォームの厚さは特記による。

2章_11節 勾配屋根改修工事

保全工事共通仕様書 2.11.2

既存シングル改修工法 (改修アスファルトシート防水)

標準納まり図 (参考図)

図1 新規防水改修工法

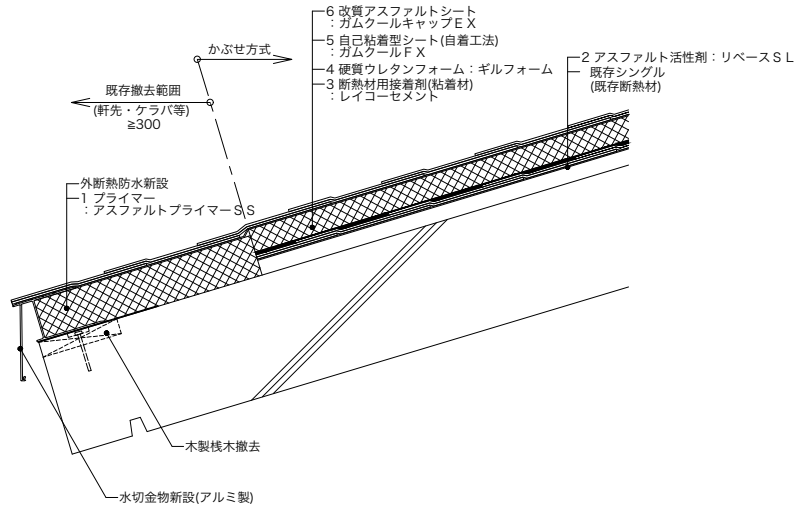


図2 棟部分 新規防水施工

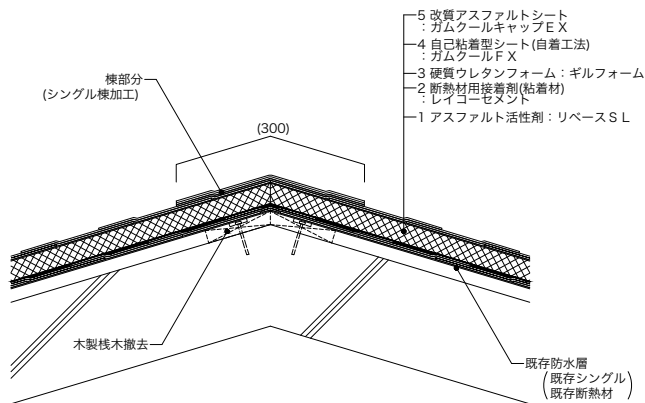
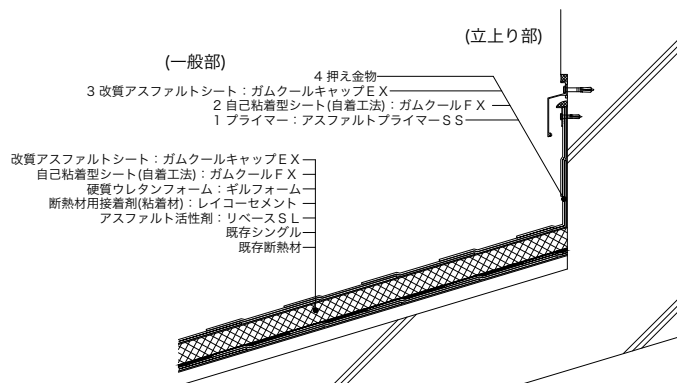


図3 壁立上り部分 新規防水施工



2章_11節 勾配屋根改修工事

対応製品紹介

速乾性プライマー

アスファルトプライマーSS



アスファルトを揮発性溶剤で溶解した速乾性の下地処理。

16kg/缶

アスファルト活性化剤

リベースSL



既存防水層を活性化させる勾配屋根用アスファルト系下地活性化剤。

20kg/缶

断熱材用接着剤

レイコーセメント



改質アスファルトをペースト状に仕上げたギルフォーム用接着剤。

18kg/缶

断熱材（硬質ウレタンフォーム）

ギルフォームS/W



ノンフロントタイプの外断熱用硬質ウレタンフォーム。SとWの2サイズあり。

S：605mm×910mm W：1,200mm×900mm
厚さ：25/30/35/40/50/60/75mm

自己粘着型シート

ガムクールFX



裏面が全面粘着タイプの中貼りシート。

1m×16m 1.5mm厚
JIS A 6013

改質アスファルトシート（自着工法）

ガムクールキャップEX



表面が砕石砂仕上げ、裏面が全面粘着層の露出防水用キャップシート。

1m×8m 3.5mm厚
JIS A 6013

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする日射反射率70%以上のエマルジョン系高反射保護塗料。

18kg/缶

ゴムアスファルト系シール材

強力ガムシール



アスファルト防水層の張仕舞、端末部に使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ：20本/箱
20kg/缶 9kg/缶

変性シリコン系シール材（製造所推奨品）

GCライン（カート/ジャンボ）



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート 各10本/箱
※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

2章_11節 勾配屋根改修工事

対応製品紹介

階段調整用アスファルト系ボード（製造所推奨品）

バリスター／シングルシャドー155



シングル撤去後の軒先やケラバの段差調整用アスファルト系ボード。

※②は受注生産品

- ①バリスター：6mm×500mm×1m
- ②シングルシャドー155：6mm×155mm×1m

水切金物固定補助両面テープ（製造所推奨品）

フラッシングテープ



剥離紙マス目面が下地側

耐風圧性能向上のための、水切金物固定補助両面粘着テープ。金物の貼直しが容易にできるよう、表側は経時で徐々に粘着力が増す。

160mm×25m巻

材料紹介

下地処理材（製造所推奨品）

ポリマーセメントモルタル

リグレー・ネオ／リグレー・ネオ パウダー



下地補修用SBR系ポリマーセメントモルタル。リグレー・ネオ（SBR系混和液）とパウダーを混練して使用。

リグレー・ネオ：18kg/缶
リグレーパウダー 厚塗り用：20kg/袋
薄塗り用：20kg/袋
※水を添加しないでください。

水性エポキシ系下地調整剤

リグレーエポ

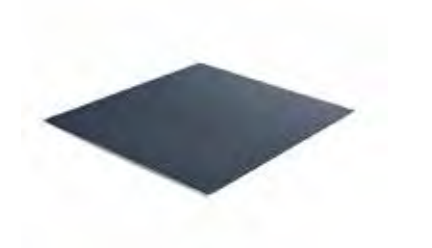


荒れたコンクリート等の下地はもちろん、タイル、金属材などに被膜を形成。各種下地材への接着性に優れた水性エポキシ系の下地調整材。

28kg/セット
（主剤：4kg、硬化剤：4kg、パウダー：20kg）
※シルバー塗料の上には使用できません。

アスファルトパネル

バリボードPS



アスファルトに無機質充填材を配合し板状に成型したパネル材。裏面は砂粒層で下地水分を拡散。容易に施工でき、耐衝撃性・耐圧縮性に優れる。

1m×0.9m/枚
厚さ：4mm
※砂付面を下にして使用。
表層フィルムは張付後撤去。

仮防水材

アスグランド



既存防水層撤去後、新規防水層施工までの一時止水に用いる、速硬化タイプの仮防水材。

アスグランド：9kg/缶
グランドパウダー：12kg/袋

マルチグランド



既存防水層撤去後のアクリル水性仮防水材。

マルチグランド：10kg/箱
グランドパウダー：12kg/袋

アスファルトパネル用目地テープ

バリテープC



バリボードPSの目地部増し張り用。剛性が高く強靭な片面粘着層付きのテープ。

100mm×20m巻

目地処理材

メジパス



表面を特殊加工した、アルミ製の改修工事用目地キャップ。既存押えコンクリート目地を利用した「目地通気システム」に使用する。

90mm×1m 厚さ：0.3mm
100枚/箱
※黒ライン表示の面を上にして使用。

水切りテープ

オルタックアゴテープ



パラペットアゴ下専用の粘着層付水切りテープ。

48mm×50m巻
厚さ：0.14mm

材料紹介

改修用ドレン（製造所推奨品）

排水用ドレン たて用

リードレンCたて



改修工用たて型銅製ドレン。
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

つば：365mm×365mm 筒長さ：150mm
9サイズあり（標準品は5サイズ）
1個/箱（規格については下表参照）

ドレンキャップ190



アルミダイキャスト製縦引き用ドレンキャップ。

φ190mm×170mm 色：黒
1個/箱

ドレンキャップAS

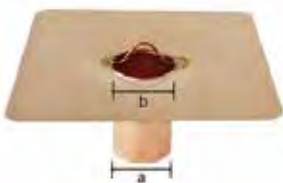


アルミダイキャスト製の縦引き用ドレンキャップ。

φ114mm×高さ35mm 色：黒・ライトグレー
5個/箱

排水用ドレン たて用

リードレンZたて



「リードレンCたて」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、連結式銅製ドレン。

つば：365mm×365mm 筒長さ：150mm
標準品5サイズ（規格については下表参照）
1個/箱

※「リードレンキャップZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンキャップZたて



リードレンZ専用の連結式縦引用キャップ。
軸芯部のJフックをリードレンZの丸棒部に掛け、Wナット締めで連結固定する。
アルミダイキャスト製。

φ190mm×170mm 色：黒
1個/箱

※「リードレンZたて」以外との組合せ使用不可。

リードレンCたて：9サイズ（標準品：表内の下線表示、受注生産品：表内の※印）

リードレンZたて：5サイズ（表内の下線表示）

呼称	35※	45※	50※	<u>60</u>	<u>65</u>	<u>75</u>	<u>80</u>	<u>95</u>	120※
外径(a)/mm	35	45	50	58	64	74	80	95	119
内径(b)/mm	33	43	48	56	62	72	78	92	117
許容最大屋根面積 (㎡) *	22	44	60	90	118	176	218	339	645

- リードレンCたての受注生産品(※)は、納期約2週間。
- リードレンZたての標準品以外のサイズは特注品として承ります。
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケーシングDX」のご利用が便利です。

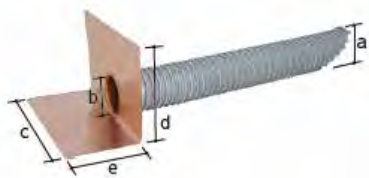
* SHASE-S206（船排水衛生設備基準・同解説）に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

材料紹介

改修用ドレン（製造所推奨品）

排水用ドレン 横用

リードレンC横



改修工事用横型銅製ドレン。
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

つば：下表参照 ホース有効長さ：500mm
7サイズあり（標準品は3サイズ）
1個/箱

ドレンキャップ横引用C200



角度調節ができるアルミダイキャスト製の横引用ドレンキャップ。

長さ：150mm×150mm×幅：200mm
色：黒
1個/箱

ドレンキャップ横引用AS

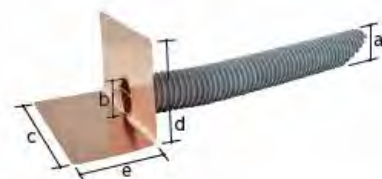


アルミダイキャスト製の横引用ドレンキャップ。

長さ：110mm×110mm×幅：140mm
色：ライトグレー
1個/箱

排水用ドレン たて用

リードレンZ横



「リードレンC横」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、強風対策型銅製ドレン。

つば：下表参照 ホース有効長さ：500mm
標準品3サイズ（規格については下表参照）
1個/箱

※「リードレンキャップZ横」以外との組合せ使用不可。

リードレンキャップZ横



リードレンZ専用の連結式横引用キャップ。中央のJフックで連結固定する。納まりに合わせてキャップの角度調節が可能。アルミダイキャスト製。

長さ：150mm×150mm×幅：200mm
色：黒 1個/箱
※「リードレンZ横」以外との組合せ使用不可。

リードレンC横：7サイズ（標準品：表内の下線表示、受注生産品：表内の※印）

リードレンZ横：3サイズ（表内の下線表示）

呼称	40※	50※	60	75	90	115※	140※
ホース 外径(a)/mm	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)/mm	30	36	49	60	73	99	124
つば 幅寸法(c)/mm	250	250	250	300	300	365	365
つば 高さ寸法(d)/mm	132	138	150	160	175	200	225
つば 奥寸法(e)/mm	140						
配管勾配ごとの許容最大屋根面積 (㎡) *	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211

【注意】

リードレンC横/Z横のフレキシブルホースは、エルボより下に落とし込んでください。落とし込んでいない場合、水が逆流する可能性が高まります。

- リードレンC横の受注生産品(※)は、納期約2週間。
- リードレンZ横の標準品以外のサイズは特注品として承ります。
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケーシングDX」のご利用が便利です。

* SHASE-S206 (船排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。

材料紹介

脱気筒・水切り金物（製造所推奨品）

脱気筒

ステンレスベーパーパス/G



防水層のフクレを解消するための平面部用ステンレス製通気材。70～80m²に1カ所の割合で設置。Gタイプは逆流防止弁付。

300mm×300mm
高さ：205mm
各1個/箱

ステンレスベーパーパスW/G



断熱工法に使用する、二重式の平面部用ステンレス製通気材。70～80m²に1カ所の割合で設置。GWタイプは逆流防止弁付。

300mm×300mm
高さ：205mm
各1個/箱

水切り金物

フラッシュエッジ70A/110A



防水層を挟み込むサンドイッチ方式で端末からの雨水浸入を防ぐアルミ水切り。

長さ：2,000mm

フラッシュトップ60



防水層端末押えアングルと水切金物を組合わせた二重方式の雨仕舞材。

長さ：2,000mm

材料工法紹介

常温反応型改質アスファルト系塗膜防水材

アスクールC

アスファルト系シート防水との複合工法に活躍する、常温反応型改質アス系塗膜防水材。

新タイプの「アスクールC」は、新配合により施工性がさらに向上しました。

架台・立上り・配管回りなど、シートでは難しい複雑部位の施工に適した塗膜材で、

平面部のアスファルト系防水と同じ専用保護塗料を用いることで、シートと連続したイメージに仕上がります。

特長

- ・アスクールCは材料を着色化し、色の異なる2液で混合状態を目視管理できるため、1分強で混合が完了します。
- ・不定形の塗膜材ですので、架台や配管回りなどの複雑部位の施工に適しています。
- ・アスファルト系シート、ルーフィングとの接着性が良好です。
- ・SPファインカラーなどの専用保護塗料を塗布することで、砂付ルーフィング～アスクールCまで連続した仕上りイメージが得られます。

工程

PQ-160C 立上り・架台

工程	製品	使用量/㎡
1	OTプライマーA	0.2kg
2	先増貼り ポリマリット25 (注)1	—
3	アスクールC	0.8kg
4	マットFC	—
5	アスクールC	1.2kg
6	アスクールC	0.8kg
7	SPベース(アスクールC上のみ)	0.45kg(注)2
8	SPファインカラー	0.15~0.3kg

※ アスクールCをアスファルトおよび各種ルーフィング上へ塗布する範囲には、OTプライマーA(0.15kg/㎡)を塗布してください。

※ 入隅処理については現場協議の上、後増貼り(アスクール0.8kg+マットFC+アスクール1.2kg)に変更する場合があります。

(注)1. 施工後表面フィルムをあがってからOTプライマーAを塗布してください。断熱仕様の場合は、増貼り材が変更となる場合があります。

(注)2. 側溝部をPQ-160Cで施工する場合は、工程6と工程7の間に伸介プライマーとして、OTプライマーA(0.15kg/㎡)を塗布してください。

注意事項

- ・改修工事でアスクールCを用いる場合、立上り・架台回りは原則既存防水層撤去を想定しています。
- ・冬季などで材料が固い場合、アスクールCにアジャストEを添加することもできます(添加量5%以下)。トルエン、キシレンなどは使用しないでください。
- ・金属下地にはプライマーBP(0.1kg/㎡)を、ウレタン下地にはOTプライマーA(0.15kg/㎡)を使用します。
- ・アスクールCには、水性プライマーAS、アスファルトプライマー、アスファルトプライマーSSは使用できません。
- ・アスクールC塗り重ねの際に5日以上空いた場合は、最初にOTプライマーA(0.15kg/㎡)または速硬化OTプライマーMブルー(0.1kg/㎡)を塗布してください。
- ・アスクールCは「エンシンシート」と組合わせての使用はできません。

材料紹介

常温反応型改質アスファルト系塗膜防水材料

プライマー（コンクリート、モルタル下地用）

OTプライマー-A



コンクリート、モルタル下地用 1液型ウレタン系プライマー。

16kg/缶

改質アスファルト系塗膜材

アスクールC



アスファルト系材料との接着性に優れる、立上り・架台用の反応硬化型改質アスファルト系塗膜防水材料。

20kg/セット（A剤：5kg、B剤：15kg）

不織布シート

マットFC



表面のメッシュを埋める要領で塗膜材を塗布する立上り用不織布シート。裏面は不織布仕上げ。

1,050mm×50m巻
（カット品：200mm×50m）

増張り用シート（トーチ工法）

ポリマリット25



2層工法に用いる下貼り及び立上り部用シート。

1m×8m 2.5mm厚
JIS A 6013

増張り用シート（自着工法）／目地補強用テープ

ポリマリットGL／ポリマリットGL（カット200）



下張り用改質アスファルトシートで、裏面全面にゴムアス層を設けた密着工法用シート。
・カット200：片面粘着タイプのテープです。
コーナー・入隅部などの増張り、
ALC板短辺部の補強に使用します。

1m×8m / カット200：200mm×8m 2.0mm厚
JIS A 6013

中張り用シート

ガムクールFX／FX-33



ガムクールFXは、裏面が全面粘着タイプの中張りシート。FX-33はガムクールFXを裁断したもの。
JIS A 6013

ガムクールFX：1m×16m巻
FX-33：330mm×16m巻
厚さ：1.5mm

水性保護塗料

SPベース



アスクールC上に塗布するアクリル系骨材入水性保護塗料。市販の砂骨ローラーにて塗布する。

8kg/缶

仕上げ塗料

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする日射反射率70%以上の水性高反射保護塗料。

18kg/缶

変性シリコン系シール材（製造所推奨品）

GCライン（カート／ジャンボ）



防水層の張仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート 各10本/箱
※GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

材料紹介

防滑性ビニル床シート

ビュージスタ

集合住宅の共用廊下、バルコニー、階段、エントランスなどに最適な、耐候・防滑性ビニル床シート「ビュージスタ」。耐久性、防滑性はもちろんのこと、マンションの居住性を高める美しく飽きのこない豊富なデザインをご用意しています。清掃性や発音低減などの高機能シリーズもラインナップしています。



VIEW GISTA

\ 全12柄46アイテムのラインナップ /



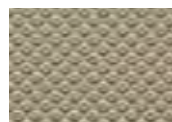
お掃除らくらく

砂と塵を掃き出しやすいエンボス形状で清掃性と防滑性を両立。



いたわりウォーク

低深度の表層エンボスが、スムーズな歩行性やすくれた清掃性を実現。



省音やすらぎ

発泡層により歩行音を軽減するやすらぎ設計。



ソフトウッド

横張りの木目調柄で、リビングとバルコニーが連続する空間に。



パイルライン

カーペット調の柄がやわらかな空間を演出します。



Gio ジオ

インレイドタイプで、空間を選ばない汎用性の高いエンボス形状です。

インレイド：着色したビニル片や粒を散布、配列した後、加熱圧着して柄や模様を作り上げる手法。

エアコン排水用部材

VG 排水レール/VG 排水ホルダーEX



エアコン室外機から流れ出る水の拡散を防止する排水用レールとエアコン排水ホース固定部材。静音・躓き(つまずき)防止タイプのVG排水レールEXもあり。

VG 排水レール
：3.0mm(厚さ)×45mm(幅)×25m(長さ)

接着剤

セメントVG



一液性のウレタン樹脂系接着剤。作業性が良く、耐水性に優れる。
標準使用量：約55㎡ (18kg/缶)
オープンタイム：約15分 (20℃)

9kg/缶、18kg/缶

シーリング材

VGシールMS



ビュージスタおよびビュージスタステップの端部処理用変成シリコン系シーリング材。一液性のため、作業性が良く、蹴上げ等の立上り施工性に優れる。

330ccカートリッジ 2本/箱

